

令和7年度 法人本部事業計画書（案）

社会福祉法人 ささゆり会

令和7年度は、ささゆり会にとって重要な年となる予定です。本年度の法人本部事業計画書（案）では、生産性向上連携加算の取得を目指し、さまざまな取り組みを行います。具体的には、介護ロボットの導入および介護ソフトの切り替えを随時行う計画です。これにより、介護現場の効率性を高め、利用者へのサービス向上を図ります。取得可能な加算についても積極的に取り組む予定です。

また、研修の強化も重要な課題として取り組んでいます。昨年度同様に毎月研修を実施し、常勤・非常勤職員全員が参加できる体制を構築します。特に虐待防止研修に力を入れ、労務士の先生からはパワハラ・セクハラ防止研修も行います。さらに、兵庫県立大学大学院特任教授の藤本先生からはマーケティングの研修、『コココーラを日本一売った男の学びの営業日誌』の山岡先生からは営業の研修を1年間、月1回実施する予定です。これにより、職員のスキル向上と組織全体の強化を図ります。

今年度は、特定技能生の受け入れを10名予定しており、7月以降の受け入れについても調整中です。海外で学習中の候補生68名のうち、約15名がささゆり会での受け入れを予定しており、入国後にはメンタルケアや生活支援を提供します。さらに、日本語学習や介護福祉士資格取得を支援し、彼らがスムーズに業務に適応できるようサポートします。

新型コロナウイルス感染症対策として、介護職員には手洗いとマスクの徹底を求めています。今年度は、感染対策を行いつつ、コロナ前の行事を徐々に復活させて地域との交流を図ります。手袋、マスク、アルコール消毒液、ガウンなどの感染防止用品を十分に備えており、利用者の家族との面会機会も増やす方針です。

これらの取り組みを通じて、ささゆり会は地域社会への貢献を深め、利用者とその家族へ質の高いサービスを提供していくことを目指します。全ての職員が一丸となり、課題に取り組み、改善実行を進めてまいります。

運営スローガン：

『全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！』

1. 本年度の重点課題

- I. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
 - ・外国人技能実習生受け入れ
- II. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
 - ・業務の無駄を可視化し業務改善
 - ・施設のDX化
- III. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
 - ・幹部職員の育成研修
 - ・特定技能生の採用と育成
 - ・虐待防止対策の推進

2. 定例会議

ア. 理事会

当法人の業務執行機関として、事業報告・決算の承認・事業計画・予算の承認その他重要事項決定のため、以下の執行を行う。

会議名	内容	時期
第1回理事会	1. 事業報告・決算報告の承認 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題 3. 新理事・監事の推薦 4. その他諸規定の検討	2025年6月
第2回理事会	1. 理事長・副理事長の選定 2. 評議委員選任・解任委員の選任 3. 時期評議員候補の評議員選任委員会への推薦 4. 顧問の専任	2025年6月
第3回理事会	1. 経営戦略について 2. 各事業所の経営内容について	2025年8月
第4回理事会	1. 経営戦略について 2. 各事業所のサービス内容について	2025年10月
第5回理事会	1. 上半期事業推進報告と課題の検討 2. その他諸規定の検討	2025年12月
第6回理事会	1. 経営戦略について 2. 各事業所の人材確保について	2026年2月
第7回理事会	1. 事業計画書 2. 法人組織・諸規定の検討、その他	2026年3月

イ. 監事会

事業の執行状況及び決算についての報告と、理事会に意見を述べるため以下の会議を行う。

会議名	内 容	
監査報告	1. 会計監査人会計監査報告	2025年6月
第1回監事会	1. 前期事業報告・決算の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施課題について 3. その他運営上の課題について	2025年6月
第2回監事会	1. 上半期事業推進状況の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題 3. その他施設運営上の課題について	2025年12月

ウ. 評議員会

当法人の役員の選任と、法人運営の基本ルール・体制の決定と事後的な監督を行う機関として位置づけ、必置の議決機関として以下の会議を行う。

会議名	内 容	時 期
定時評議員会	1. 充実残高計画の承認 2. 2024年度計算書類の承認 3. 新理事・監事の選任	2025年6月
臨時評議員会	1. 事業計画・予算案の承認 2. 法人組織・諸規程の承認、その他	2026年3月

エ. 評議委員・選任解任委員会

会議名	内 容	時 期
評議委員・選任解任委員会	1. 評議委員の改選	2025年6月

2. 介護保険サービス推進委員会

利用者様の立場に立った介護と生活の質の向上を目指し、以下の会議を行う。

会議名	内 容	時 期
第1回推進委員会	1. 上半期諸事業の取組み結果と課題について	2025年12月
第2回推進委員会	1. 2026年度事業計画御立・魚崎事業所の摺り合わせ 2. 活力ある職場創り推進状況について	2026年3月

特別養護老人ホームサンライフ御立

令和7年度 事業計画書（案）

今年度経営スローガンは、昨年度同様「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」を基に一つひとつの問題に全員で取り組み、日々業務改善を図り、生産性向上・業務の標準化に努める。その中でも質の高いサービス提供に向け、ガバナンス強化を図り、コンプライアンス遵守できるよう、全介護・看護への研修の徹底し、必要に応じ実施方法、各種指針・マニュアルを見直す。

1. 生産性向上・業務の標準化への取り組み

人員配置は、法令順守を基本とし、全国基準（1：2.15）を念頭に置き、各箇所に標準化を図りたい。職員やご利用者の入れ替わり、状態変化に合わせ、対人援助の基本である人物理解・個別化を再度考え、PDCA サイクルにのっとり、見直し、周知徹底、実施を繰り返し、業務の標準化を図る。間接援助業務においても、PDCA サイクルにのっとり標準化することで効率的に実施し、直接援助業務において十分に利用者と向き合い時間をかけ利用者本位の介護が実施できるようにしていきたい。

5S 活動・業務改善活動に関しては、今後も各班で実施し、毎月のリーダー会議（生産性向上委員会）にて写真や数字を示した報告を上げるようにし、ただ整理整頓するだけでなく、改善した状態が保たれるようルール化し、徹底したい。

2. 職員研修・指導強化

生産性向上・業務の標準化を実施するにあたり、心理的安全性を高めることが必要不可欠である。そのためにも、セルフケアやアンガーマネジメントなどのメンタルヘルスケア、法人で実施予定のパワハラ・セクハラなどのハラスメント研修にあわせ各部署でも定期的に研修を実施したい。また、内部研修の実施、指針・マニュアルの定期的に見直しながら、一人でも多くの職員が自身の役割を認識し、意志を高めあい、意見ができるチームとして、考え行動するシステムを構築していきたい。

I. 内部研修 について

身体拘束・高齢者虐待防止についての研修を法人全体の取り組みとして実施する虐待防止研修やハラスメント研修にあわせ、リスク委員会とも協力し使用した資料などを活用し、各部署でも意識的に取り組み、意思統一が図れるよう班会議にて研修を実施していきたい。

また、その他介護技術向上にむけ、看護師・作業療法士・歯科衛生士等各専門職と連携を図り研修を実施し、ADL の維持・向上、自立支援に向けた介護の基本を踏まえ内部

研修を実施していく。あわせて、介護ロボットとして特浴室へのリフト導入を検討しているため、十分活用できるよう研修などを活用し、意識改革を行う。その他の福祉用具も積極的に活用し、一人にかかる負担の軽減を図りたい。

II. 外国人職員の育成について

日本語学習においては、日本語でのコミュニケーション能力向上にむけ、日誌や申し送りも活用しながら積極的にコミュニケーションを図らなければならない職場環境を作り、介護技術や知識の習得と合わせ進捗を確認していきたい。また、勤務調整をしているが、日本語勉強会への出席率の低下が問題となっているため、日本語習得の重要性を改めて伝えながら勉強会からの評価表の確認だけでなく、職員自身への聞き取り含めモチベーション維持に努めたい。あわせて先生方とも連携を図ると共にリーダー及び主任・相談員が、各所属班での状況把握、サポート体制の強化を図っていく。

介護技術においては、情報共有を徹底し、それぞれの職員のレベルの把握、いかにブラッシュアップしていくかを考えながら、安全で安心な介護提供が出来るよう、また、職員自身も安心して安全に働けるよう環境を整えることで、定着化を図りたい。

III. 介護ロボットや見守り機器など IoT 及び ICT 活用について

ケアカルテ導入に伴い、スマートフォン、タブレット、インカムを運用しているが、まだまだ十分でないため、相談員・主任・リーダーが率先してケアカルテの「ハナスト」を活用しながら、他の職員への周知徹底に努めたい。そして、PC での作業の減少に向け、ケア記録作業の効率化を図りたい。

3. BCP と感染予防対策の実施

感染症や災害が発生した場合でも継続して安定したサービスが提供できるよう BCP を定期的に見直し、周知徹底に合わせ、1年に1回の各実践訓練を実施する。また、既に導入している緊急時用バッテリーや災害時用発電機が緊急時使用できるよう、平常時から使用方法を確認し、実践訓練での使用も含め検討し、非常時に備えたい。

4. 収入の確保

入院については、状態観察を強化し、医務と連携し、早期発見・対応⇒早期入院⇒早期退院へと繋げたい。また、入所率 98%以上をキープすることを目指したい。そのためには、いかにロングから特養にスムーズに移行できることが必須である。あわせて、入院ベッドの利用でショート稼働を上げていくことも重要である。今年度もショート相談員と密に連携をはかり、入所申し込みがあった場合には、早期の面談等迅速に対応し、待機者確保に努めたい。そして、算定可能な加算取得を確実にいき、介護度の見直しを定期的に行っていく。

支出として、価格高騰に伴う光熱費・食材費の増加や優秀な人員確保のためにも既存スタッフの昇給は必須であり、外国人職員についても今後も定期的な入職を予定しており人件

費の増加は必至である。また、介護ロボット、見守り機器の導入(補助金対象)やマットレスの入れ替えを予定している。

●年間収入予想 (令和5年度実績の2月・3月分は目標の数値です。) (単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	39,090	40,649	39,671	40,683	40,046	38,696	238,835
令和7年度収入計画	40,241	41,582	40,241	41,582	40,241	41,582	245,469
令和6年度支出	31,983	27,552	44,763	31,739	33,100	31,589	200,726
令和7年度支出計画	31,866	32,928	43,606	32,928	43,606	36,366	221,302
令和6年度収支差額	7,107	13,097	-5,092	8,944	6,946	7,107	38,109
令和7年度収支差額計画	8,375	8,654	-3,366	8,654	-3,366	5,216	24,166
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	41,708	39,126	40,222	40,144	34,774	40,526	475,336
令和7年度収入計画	41,582	40,241	41,582	41,582	37,558	41,582	489,596
令和6年度支出	32,141	26,734	43,780	42,709	29,434	68,588	444,112
令和7年度支出計画	32,928	31,866	45,060	31,866	29,742	31,866	424,631
令和6年度収支差額	9,567	12,392	-3,558	-2,565	5,340	-28,062	31,224
令和7年度収支差額計画	8,654	8,375	-3,478	9,716	7,816	9,716	64,965
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							103%
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							96%
令和6年度と令和7年度計画の差額比率							208%
<p>収入・支出・差額についての管理者意見</p> <p>収入に関しては、大きな収入の増加は見込めないが、現在取得している加算において人員配置等管理を徹底し今後も継続して算定する。また、人員配置の調整で新しく算定できる加算や規制緩和につながるものを見極め算定につなげたい。稼働率については、例年同様、稼働率98%以上を目指し、できる限り多くの待機者を確保するとともに、既存利用者の介護度を定期的に見直しながら収入を確保していきたい。また、設備の老朽化による修繕の年々増えているため収入確保が必至である。</p> <p>支出に関しては、今後も定期的な外国人スタッフの入職及び既存スタッフの昇給による人件費の増加、価格高騰に伴う光熱費・食材費の増加は必至である。介護ロボット、見守り機器の導入(補助金対象)、マットレスの入替を予定している。</p>							

サンライフ御立 ショートステイ

令和7年度 事業計画書（案）

昨年に引き続き「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」を基盤とし、自ら考え動いていけるように全員の意識を高め、業務効率化にも力を入れていきたい

1. 安心して過ごせる場所作り

挨拶とコミュニケーション、ニーズへの対応、的確な状態報告によって、ご利用者様やそのご家族様が安心して利用できる環境作りをおこなっていききたい。

- ・新規利用の方に対し不安な気持ちを払拭できるような関わりを多く持ち、リピート利用に繋げていきたい
- ・全員が利用者様をよく見て、利用時の変化など気づいたことを的確に家族様に連絡、報告できるようケアカルテを駆使して職員間の情報共有を徹底する
- ・状態変化に対応できるよう日頃から利用者様をよく観察する。
- ・日々の小規模のレクリエーションにも力を入れ、楽しいと感じる時間を作る
- ・荷物チェックを確実におこない返却忘れをなくす。

2. 生産性向上の取組み

5Sについては、活動の意味を再度職員に発信し、理解をしたうえで実施することで一人ひとりが自分達の働きやすい職場作りを実践していく。定期的に2か所、月ごとに担当を決め活動を継続する。それを毎月のリーダー会議（生産性向上委員会）にて写真や数字を示した報告として上げるようにし、ただ整理整頓するだけでなく、改善した状態が保たれるようルール化し、徹底したい。

3. 職員研修・指導強化

生産性向上・業務の標準化を実施するにあたり、心理的安全性を高めることが必要不可欠である。そのためにも、セルフケアやアンガーマネジメントなどのメンタルヘルスケア、法人で実施予定のパワハラ・セクハラなどのハラスメント研修にあわせ各部署でも定期的に研修を実施したい。また、内部研修の実施、指針・マニュアルの定期的に見直しながら、一人でも多くの職員が自身の役割を認識し、意志を高めあい、意見ができるチームとして、考え行動するシステムを構築していきたい。

I. 内部研修 について

身体拘束・高齢者虐待防止についての研修を法人全体の取り組みとして実施する虐待防止研修やハラスメント研修にあわせ、リスク委員会とも協力し使用した資料

などを活用し、各部署でも意識的に取り組み、意思統一が図れるよう班会議にて研修を実施していきたい。

また、その他介護技術向上にむけ、看護師・作業療法士・歯科衛生士等各専門職と連携を図り研修を実施し、ADL の維持・向上、自立支援に向けた介護の基本を踏まえ内部研修を実施していく。あわせて、介護ロボットとして特浴室へのリフト導入を検討しているため、十分活用できるよう研修などを活用し、意識改革を行う。その他の福祉用具も積極的に活用し、一人にかかる負担の軽減を図りたい。

II. 介護ロボットなど IoT 及び ICT 活用について

ケアカルテ導入に伴い、スマートフォン、タブレット、インカムを運用しているが、まだまだ十分でないため、リーダーが率先してケアカルテの「ハナスト」を活用しながら、他の職員への周知徹底に努めたい。申し送り機能を活用し情報共有の強化に努める。

4. BCP と感染予防対策の実施

感染症や災害が発生した場合でも継続して安定したサービスが提供できるよう BCP を定期的に見直し、周知徹底に合わせ、1年に1回の各実践訓練を実施する。また、既に導入している緊急時用バッテリーや災害時用発電機が緊急時使用できるよう、平常時から使用方法を確認し、実践訓練での使用も含め検討し、非常時に備えたい。

5. 事故防止の取り組みを継続していく

日々の利用者様の状態をよく観察することで危険予測をすることが大切。歩行していた方が状態変化によって転倒が増えるなど、変化に対策が追い付かないこともあるが、過去の経験なども活かし、危険予測する力を全員が身に付けていきたい。件数を意識するためのポスター掲示は継続する。

6. 収入の確保について

見守りセンサーの全室稼働が整えば、生産性向上加算の上位加算が取得できる以外、あらたな収入増の見込みはなく、建物設備老朽化によって今年も修繕費がかかってくるが見込まれる。昨年は感染流行や入院で 70%台まで稼働を下げた月もあり、そういったことのないよう最善の注意とキャンセルに繋がらないような対策に努めたい。90%後半で稼働率をキープし、緊急での依頼も可能な限り対応し安定した稼働を維持したい。

ロング利用の入れ替え時の空床を出来るだけなくすことは基本であるので、特養相談員主任と協力していきたい。

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	10,543	10,143	10,203	10,694	9,998	8,499	60,080
今年度収入計画	10,448	10,681	10,577	10,763	10,675	10,405	63,549
令和6年度支出	9,570	7,608	12,034	8,124	9,221	10,123	56,680
今年度支出計画	9,370	8,642	12,000	8,642	9,000	8,642	56,296
令和6年度収支差額	973	2,535	▲ 1,831	2,570	777	▲ 1,624	3,400
今年度収支差額計画	1,078	2,039	▲ 1,423	2,121	1,675	1,763	7,253
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	9,940	9,838	10,437	10,474	10,143	10,203	121,115
今年度収入計画	10,687	10,771	10,778	11,087	9,437	10,895	127,204
令和6年度支出	8,923	7,624	12,990	9,500	7,608	8,124	111,449
今年度支出計画	8,956	8,642	13,000	8,642	8,622	9,120	113,278
令和6年度収支差額	1,017	2,214	▲ 2,553	974	2,535	2,079	9,666
今年度収支差額計画	1,731	2,129	▲ 2,222	2,445	815	1,775	13,926
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							105%
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							102%
令和6年度と令和7年度計画の差額比率							130%
【収入・支出・差額についての管理者意見】 大きく変化する加算等はなく、建物設備老朽化により修繕費がアップすることや見守り機器の導入(補助対象)を考えると感染流行によるキャンセルを出来るだけ防止し、ロングの入れ替わりをスムーズにするなどで稼働率を安定させることで収入を保つことを目指す							

特別養護老人ホームサンライフ御立（医務）

令和7年度 事業計画書（案）

経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」のもと、職員1人1人の責任感と問題解決能力の育成を目指す中で、以下の項目を軸として事業計画を立案する。

1. 各委員会活動の充実

I. 各委員会活動について

褥瘡：多職種間で予防や早期発見・早期対応に努め、褥瘡発生件数の減少を目指す

看取り：看取りに対する家族理解を深め、看取り件数の増加を図る

感染症：感染症発生時に迅速かつ正確な初動行動の定着を図る

現在、業務継続計画に基づき施設内の感染症が発生した場合の演習を年2回実施するよう義務付けられた。前年度では、外国人職員割合の増加や全体の職員数の減少によって参加人数が絞られる結果となった。今年度では、人員不足の中でも施設全体が演習に参加できる体制を構築していきたい。

委員長である看護師が各分野の中心となって、既存問題の選定やその改善・実行に向けて取り組んでいきたい。

2. ベッド稼働率の維持（経営力強化）に向けて

I. 嘱託医と連携し、施設内処方や早期受診件数の増加を図り、入院数の軽減を目指す

II. 入所者様の健康診断を年1回実施する。嘱託医の指示のもと、診断結果から潜在性疾患の検索や異常の早期発見・早期治療を図り、ベッド稼働率の維持（目標値 98%以上）を目指す

前年度のベッド稼働率は、目標値の 98%を達成できなかった。近年ではロングショート受け入れ時より介護度や医療度の高い利用者が多く、比例して医療行為や受診、搬送件数も多くなってきている。その状況の中で、どのようにして長期的なベッド稼働に繋げていけるかを他職種とも連携しながら模索していきたい。

また、引き続き受診・入院先についても家族様と相談の上で厳選し、適宜姫路市の入退院連携ルールも活用しながら入院日数の短縮を図っていきたい。

3. 職員の健康増進

I. 職員健康診断を医師会協力のもと年1回（深夜業に従事するものは2回）、嘱託医と連携し腰痛検査を年2回実施する

II. オプション健診や人間ドック助成対象者については、健診への呼びかけを行い受診率の向上を図る

年々人間ドックやオプション健診希望者は増加傾向である。しかし、昨年度ではバリウム検査の参加人数が極端に少なかったため、今年度では検査の有意性を啓発していきたい。

4. 研修会や看護体制加算の安定に向けて

来年度もパワハラ・セクハラや虐待の研修会が予定されており、医務室としても全面的に参加・協力していく。

現状の看護体制加算の維持安定や他施設・他部署への応援協力に向けて、長期的な視野で人材確保を継続していく。

特別養護老人ホームサンライフ御立(厨房)

令和7年度 事業計画書(案)

1. 人材の定着・育成

前年度は、1名の退職と新入職員・中途職員の計2名入職があった。引継ぎに関しては、マニュアル等の活用もあり、スムーズに終わることが出来た。また、職員のみでは手が回らないことも多いため、パート職員への指導にも力を入れた。今年度は、厨房業務・事務業務のマニュアルの追加と更新を進めていきたい。誤配膳やショートの入退所の間違いは減少しているため、引き続き、意識・知識の定着に力を入れていきたい。

2. 献立の充実

現在も、既製品・カット野菜を取り入れてはいるが、介護職員と協力し、リクエスト献立を月2回行い、焼きそばや稲荷ずし、パスタ、お好み焼きなどの提供をした。今年度も継続し、食事の満足度の向上に努めたい。また、季節のイベント食も継続し、季節感も大切にしていきたい。

米や野菜の値上げが続いたことで、食材料費が上がってしまった。調味料や冷凍食材の業者の見直しや、廃棄量の減少に力を入れることで食材料費を出来る限り抑え、満足度の高い献立の提供に努めていきたい。

3. 衛生管理

昨年度も異物混入や食中毒の発生はなかった。最近では食中毒の発生の記事をよく目にするため、衛生管理マニュアルの見直し・職員への指導を再度行い、異物混入・食中毒の発生防止に努めていきたい。

4. 栄養マネジメント

人員不足のため、厨房の業務に手いっぱいになっており、ミールラウンドや会議への参加が出来ない状況が続いている。今年度は新卒の管理栄養士の採用も決まっているため、職員で協力し、ミールラウンドの充実に努めていきたい。

デイサービスセンターサンライフ御立

令和7年度 事業計画書（案）

令和7年度ささゆり会経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」を基に、一人で考えず悩んだら迷ったら相談しあえる職場環境づくりを目指し働きやすい職場を作っていきたい。

1. 利用者の確保について

昨年度は、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターへ営業の頻度の見直しを行い、定期的に管理者・生活相談員問わず常勤職員で協力し営業活動を行った。そのことにより新規利用者の紹介や見学希望者の問い合わせが増加した。利用者募集チラシを、興味を持っていただけるような内容へ更新し営業活動へ活用した。折り込みチラシやポスティング、見学ツアーを実施し利用者の確保へ繋げた。

2. サービス内容について

好評の電子オルガンによる生演奏やリズムに合わせて楽しみながら健康を維持できる音楽レクリエーションを今後も継続し、定着しつつある定期的な外出レクリエーションを行い、身体を動かす機会を確保し心身共に活性化を図りたい。定期的に買い物外出も取り入れ、買い物支援も引き続き行いたい。また、理学療法士等による個別リハビリや集団体操を継続して行いADLの維持・向上につなげたい。

3. 職員の教育について

施設内研修では、一人一人が考える力を身につけられるよう、継続して学びの機会を確保し新しい知識の習得を目指したい。違った視点で物事を考えることができ、意見交換を行い知識・技術の向上につなげたい。常勤・非常勤職員ともに、積極的に外部研修へ参加を行い知識・技術の向上に努めていきたい。

4. 虐待防止対策について

虐待を予防・防止するために定期的な研修を行い、知識向上を努める。日々の業務で発生した困難事例、不安や不満なことを話しあう機会を設け、職員のストレスをため込まない働きやすい職場づくりを目指していきたい。

※令和7年度2月3月は予想である。 *収入は介護報酬の収入を記載 (単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	5,216	4,918	5,157	5,425	4,232	4,351	29,299
令和7年度収入計画	5,265	5,524	5,146	5,677	5,308	5,577	32,497
令和6年度支出	4,431	3,860	4,736	9,341	5,183	4,031	31,582
令和7年度支出計画	4,281	4,200	4,868	4,500	5,200	4,561	27,610
令和6年度収支差額	785	1,058	421	-3,916	-951	320	-2,283
令和7年度収支差額計画	984	1,324	278	1,177	108	1,016	4,887
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	5,157	5,601	5,976	5,317	4,580	4,650	60,580
令和7年度収入計画	5,897	5,508	5,972	5,218	5,150	5,708	65,950
令和6年度支出	5,681	3,648	5,430	4,806	5,400	4,500	61,047
令和7年度支出計画	4,200	3,811	5,320	4,705	4,400	4,320	54,366
令和6年度収支差額	-524	1,953	546	511	-820	150	-467
令和7年度収支差額計画	1,697	1,697	652	513	750	1,388	11,584
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							108%
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							82.4%
令和6年度と令和7年度計画の差額比率							248%

収入・支出・差額についての管理者意見

6年度は、新規利用者を一定数獲得できたことにより安定した収入を得ることができた。一方で老朽化に伴い、ハイエースの新車購入に合わせ8月に車両事故によるタント新車購入、ボイラー室修繕工事があり支出が予想より上回った。7年度も引き続き利用者を獲得し今後の収入の安定につなげていきたい。

●令和7年度予想利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度実績	21.42	20.04	21.8	20.93	17.24	17.6	19.8/月平均
月合計(人)	557	541	545	565	431	440	3,079
令和7年度目標	19.5	19.8	20.1	20.4	20.7	21.0	20.2/月平均
月合計(人)	510	531	527	525	538	546	3,177

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度実績	21.0	22.19	23.69	22.66	19.00	20.00	20.63/月平均

月合計(人)	567	577	616	544	480	500	6,363
令和7年度目標	21.3	21.6	21.9	21.9	22.2	22.5	21.0/月平均
月合計(人)	575	550	591	515	532	585	6,525

(令和7年度2月3月 予想)

ケアハウスサンライフ御立

令和7年度 事業計画書（案）

1. 事業計画策定

I. この2月、1人の入居者がケアハウスにおいて初めて100才を迎えられた。健康寿命の重要性は言うまでもないが、元気に年を重ねる基本は規則正しい生活を送る事である。入居者の多くが、健康な状態と日常生活でサポートが必要な介護状態の中間に位置していると考えられる。加齢とともに心身の活力（運動機能や認知機能等）が低下し、複数の慢性疾患の併存などの影響もあり、生活機能の障害、心身の脆弱性が認められる。

昨年11月、1週間のうちに入居者6名が新型コロナウイルスに次々と感染した。あっという間に拡大する恐ろしさを実感した。新型コロナウイルスのみならず、インフルエンザ、ノロウイルスの感染予防対策を重要視したい。各々の入居者が、予防対策を日常生活の中で上手く習慣化していける様サポートしていきたい。

フレイル状態に陥っている入居者の改善策、及びウイルス感染を避ける為に“体を動かすこと”を推し進めていきたい。体を動かすと骨や筋肉を使う。免疫力の維持に大切な免疫調整物質は、筋肉と骨から大半が生成される。運動することにより、より多くが作られる。活動的になる為の機会を設け、雰囲気づくり、後押しをしていきたい。

この1年、職員が介入・支援をどう進めていくのが良いかを考え、入居者と共に生活機能の維持向上を目指したい。

(1)入居者1人ひとりが、現在の身体状態を把握する。また、測定及びチェックを定期的実施し変化を認識してもらう。

健康チェック	(目標)2回/月	実施	継続
体力測定	(目標)2回/年	実施	継続
骨密度測定	2回/年	実施予定	新規
フレイル・口腔内チェック	2回/年	実施予定	新規
健康診断	(目標)1回/年	実施予定	継続

(2)予防の為の対策

いきいき百歳体操及びラジオ体操	(目標)月～金曜日(午前9:15～)
学習療法	(目標)1回/週
各種教室の実施	(目標)「フレイル予防教室」「手作り教室」「カラオケ教室」
行事の実施	(目標)「誕生会」「ふれあい喫茶」「外食・バスハイク」「買物の日」
継続実施したい	

II. 収支目標

収入については、昨年度と同程度の補助金額が予想される。新規入居者の高齢化が進み居住年数が短くなる傾向がある。入居者の出入りが顕著になると予想される。空室の期間を出来る限り短期間にして満室状態を維持する事が大切である。新型コロナウイルス等感染防止を心がけ待機者の確保も継続的に行い、スムーズな入退去としたい。

支出に関しては、経年劣化による補強や取り替えが予想される。

※令和年度2月3月は予想

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	3,252	3,551	9,821	3,387	10,082	3,108	33,201
令和7年度収入計画	3,250	3,130	9,820	3,080	9,840	3,120	32,240
令和6年度支出	3,904	3,534	4,816	4,518	4,693	3,677	25,145
令和7年度支出計画	4,130	4,130	5,170	4,130	4,130	4,130	25,820
令和6年度収支差額	-652	17	5,005	-1,131	5,389	-569	8,059
令和7年度収支差額計画	-880	-1,000	4,650	-1,050	5,710	-1,010	6,420
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	3,124	3,103	9,657	2,925	2,985	2,985	57,980
令和7年度収入計画	3,220	3,107	9,848	3,177	3,205	2,995	57,792
令和6年度支出	4,850	3,860	5,199	9,274	4,130	4,130	50,291
令和7年度支出計画	4,130	4,130	5,170	14,130	4,130	4,130	61,640
令和6年度収支差額	-1,726	-757	4,458	-6,349	-1,145	-1,145	1,395
令和7年度収支差額計画	-910	-1,023	4,678	-10,953	-925	-1,135	-3,848
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							99.6%
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							122.5%
令和6年度と令和7年度計画の差額比率							375.8%
収入・支出・差額についての管理者意見							
収入については、今年度も入退去が顕著になると予想される為、できる限り円滑な入退去で減収幅を小さくしたい。							
支出については、経年劣化による補強や取り替えが予想される。							

2. 職員の健康増進

生活支援休暇及び年次有給休暇の取得については、勤務表作成前に希望休を募り業務に支障をきたさない様職員間で調整をする。

3. 虐待防止対策

入居者一人ひとりが、生命、健康、生活が損なわれるような状態を改善しなければならない。施設全体で、ハラスメント研修(虐待)が年8回実施予定。

施設が虐待に対して適切に対応できる様、虐待防止及び身体拘束委員会を年2回実施しているが、引き続き継続実施する。

ユニット老人ホームサンライフひろみね

令和7年度 事業計画書（案）

令和7年度は、ささゆり会経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をもとに職員の持つ専門性を向上させ、入居者様一人ひとりに目をむけたサービス提供に繋がるようにするよう支援すると共に職員が抱える負荷の軽減を含め推進していきたい。

1. 見える化の強化

I. 見える化表の定期変更

現在、排泄関係・ベッド回りサービスの見える化表を利用しているが更新がされていないことがあり、サービスの統一が出来ていない時がある為、随時の変更を居室担当が行い、月に1度リーダーによるチェックを行い最適化したケアが統一できるようにしていく。

II. 家族へのサービス見える化

感染症の蔓延等で面会制限がかかることが多くなっている中、施設の中のサービスがどのようなものが行えているかを提供するように入居者毎に居室担当がアルバムを作成していくと共に、食事が困難になってきている方などに対してはケアプランなどにも記載し家族に食事介助をして頂いたりすることにより、入居者様の状態の情報共有を行っていきたい。

2. 機能訓練の見直し

I. 専門的な機能訓練と日常生活上の機能訓練内容の変更

機能訓練については、重度化した拘縮の方への可動域訓練や予防的な日常生活上の機能訓練を入居者様毎に厚生病院 PT と連携し見直し、専門的なものについては機能訓練士が機能訓練を実施し、毎日の日常にかかるリハビリについては介護職が行うことにより、より効果的な機能訓練を実施していく。

II. 機能訓練士が外部の研修などに参加すると共に厚生病院 PT との連携を行い、介護職員などにもより詳しく情報共有ができるようにフィードバックできる体制を図る。

3. サービス改善マニュアルの実行強化

I. サービス改善マニュアルの周知

リーダー会議にてサービス改善マニュアルの説明を行い、ユニットでの活用を目指していくと共に、介護と看護間である差異のある考え方も方向性を同じにして、早く対策を実行し PDCA を回すようにしていく。

II. ニーズだけでなくウォンツを意識したサービス改善

現場にある問題や負荷について、サービス改善マニュアル実行を強化して働きやすい職場環境を行うと共に「ニーズ」必要なサービスだけではなく入居者様・家族様が求められる「ウォンツ」して欲しいサービスを見つけだせるようにしていく。

4. 生産性向上の取組み

I. 5S活動の推進

5S活動を推進し居室の棚やユニットごとに置き場所が違う物について効率的・合理的に統一した置き場所を決めて、物を探す時間が短縮できるように決めていきたい。

また、職員間で5Sの意識を高めて行けるようにする。

II. 必要物品の購入

5S活動にて必要になる備品を購入すると共に、令和元年度あたりから使用しているパソコンについては立ち上がりなどで多くの時間が無駄に消費している為、最新のパソコンの購入やリハビリ体操やレクリエーションなどもYouTubeなどを利用して行えるよう全ユニットのTVの交換を行う。

また、障子の張り替え等の時間もかかる為、居室等の障子をワーロン紙に変更を検討していきたい。

III. QCサークル活動の継続

現場にある問題を集め、その中で施設全体に共通する問題についてメンバーで取り上げQCサークル活動を通し、サービスの改善を図っていきたい。

IV. 委員会や会議・研修の効率化

委員会や会議・施設内研修については予定時間を設け原則その時間内で実行するようにすると共にそれぞれの委員長や研修担当者は法定回数や内容を意識して30分程度を目安として行うものとする。また、効率化を図る為に先に議題や方針を決めておき、メンバーはそれを確認の上、会議等に参加するものとする。

5. 医務

I. 早期対応

他職種と連携、協働し早期発見・早期治療を行うと共に、入居者様の身体状況、精神状況などの生活機能をアセスメントし病気が悪化しないように支援する。

また、精神的な変化による入居者様の対応困難状況については介護職の負荷が減少できるように医師などとも小まめに連携し対応をしていきたい。

II. 看取りの充実

要介護4・5の方が入所することが基本となってきた為、看取り開始になられる入居者も多く居られる為、入居者の尊厳ある、家族からも喜ばれる看取りを目指し、家族専門職とも連携し穏やかに過ごせるよう家族や職員からの相談にも対応を強化していきたい。

6. 収入の確保と支出

収入に関しては、常勤の管理栄養士の産休により令和7年1月より栄養マネジメント強化加算が算定できなくなっている。また、日常生活支援加算の算定を継続する為にも、要介護4以上次の入所できる候補者が常に待機出来ているように面談も早めに対応していきたい。

その為、施設長や相談員が柔軟に動けるように介護職員の確保を行い稼働率98%を目指していくと共に加算の管理なども不備がないように管理をしていく。

支出面は大きく職員の昇給及び2名の採用を含め920万円、パソコンやテレビなど生産性向上の取り組みで150万円、障子のワーロン紙などに120万円、食費等の高騰等の支出が見込まれる。

年間収入目標

※令和6年度2月3月は予想である。※収入は介護報酬の収入を記載

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	13,959	14,641	13,915	15,314	14,985	14,999	87,813
令和7年度収入計画	14,231	14,462	14,231	14,695	14,472	14,231	86,322
令和6年度支出	10,454	10,128	14,705	14,764	14,336	10,044	74,431
令和7年度支出計画	11,300	12,460	14,780	12,760	12,050	11,560	74,910
令和6年度収支差額	3,505	4,513	▲790	550	649	4,955	13,382
令和7年度収支差額計画	2,931	2,002	-549	1,935	2,422	2,671	11,412
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	14,301	14,152	14,774	13,649	13,300	14,463	172,452
令和7年度収入計画	14,695	14,231	14,462	14,462	13,327	14,729	172,228
令和6年度支出	11,470	10,468	17,769	10,623	13,100	11,709	149,570
令和7年度支出計画	11,620	11,260	16,370	11,390	10,300	11,360	147,210
令和6年度収支差額	2,831	3,684	▲2,995	3,026	200	2,754	22,882
令和7年度収支差額計画	3,075	2,971	▲1,908	3,072	3,027	3,369	25,018
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							99.8%
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							98.4%
令和6年度と令和7年度計画の差額比率							109.3%
収入・支出・差額についての管理者意見							
日常生活支援加算の算定を継続する為にも、要介護4以上次の入所できる候補者が常に待機出来ているように面談も早めに対応していきたい。その為、施設長や相談員が柔軟に動けるように現場職員の増員を行い稼働率98%を目指す。支出に関しては人件費が増加する分があるが大きな購入物が去年ほどない為、減少する為、収支差額が増加する見込み。							

デイサービスサンライフ田寺

令和7年度 事業計画（案）

令和7年度のささゆり会経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」を基に職員一人ひとりが自身の役割を理解し、業務を遂行できる職場作りを行う。

本年度は人員不足に対して如何に業務を効率的に回していくかが課題となってくる。また創立してかなりの年数が経つため、様々な物に対する修繕費が増えているが、安全に運営していく為の必要経費と捉え壊れたものは速やかに修理する。人件費、物価高騰のため食材費、高熱水費等の支出の増加は免れないため、業務の中でムダがないか現場としっかり話し合いをし、ムダのないスマートな業務へとシフトする必要がある。

1. 利用者数の確保

現状、職員の配置上新規の利用者の受け入れが難しくなっている。配置基準違反とならないよう新しい職員を早急に確保し現場を安定して回すことが急務である。現場の配置を見ながら見学会等の開催を定期的に行い、新規の受け入れをすることと同時に、既存の利用者様で利用回数を増やしたい希望がある方を優先して受け入れていき収入の増加に努める。

2. 職員の負担軽減と精神的なケアについて

ハイエース等の大きな車輛を運転できる職員が少なく、送迎を組むことが日々困難になってきていることから、職員間のスキルの差による負担が大きくなっている。個々の能力の見極めと代替え案の提示により業務量に大きな差がでないよう配慮していく。表面的に職員間での人間関係のトラブルは起きていないが、個々に抱えている悩み等が前年度のカウンセリングや面談にて課題が残る部分があるため、管理者等で職員の精神的なケアも念頭に日々の業務を行っていく。

3. サービス内容の理解と職員一人一人のスキルの向上

本来デイサービスがすべきではないサービスまでも受けてしまっていることから、送迎時間が大幅にかかり、職員の送迎負担が大きくなっている現状がある。家族様に協力してもらえることや、他のサービスで対応が必要な部分に関してはケアマネに依頼するなどしてサービスの精査が必要である。

また職員がデイサービスのサービス内容への理解が不十分であることで、優しさから引き受けてしまっていることも多く、職員の知識の向上も課題である。

4. 収支について

収入としては、今年度よりサービス提供体制加算が 18 単位から 6 単位へと変更になり収入減となる。

支出としては、人件費の増加、修繕費が大きくなると予想される。

また、電気代、ガソリン代、食材費の高騰も避けられないため、昨年に引き続き節約にも力を入れていく。

※令和 6 年度 2 月 3 月は予想である。

(単位:千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 6 年度収入	4,824	4,912	5,288	5,067	4,887	5,056	30,034
令和 7 年度収入計画	5,436	5,720	5,719	5,717	5,595	5,851	34,038
令和 6 年度支出	5,351	5,356	6,582	6,096	4,999	4,615	32,999
令和 7 年度支出計画	5,154	5,154	6,323	6,384	5,154	5,154	33,323
令和 6 年度収支差額	-527	-444	-1,294	-1,029	-112	441	-2,965
令和 7 年度収支差額計画	282	566	-604	-667	441	697	715
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 6 年度収入	5,570	6,017	5,415	4,903	5,620	5,155	62,714
令和 7 年度収入計画	5,847	5,896	5,587	4,850	5,485	5,415	67,118
令和 6 年度支出	5,122	4,876	6,305	5,768	5,271	5,271	65,612
令和 7 年度支出計画	5,154	5,154	6,070	5,407	5,154	5,154	65,418
令和 6 年度収支差額	448	1,141	-890	-865	349	-116	-2,898
令和 7 年度収支差額計画	693	742	-483	-557	331	261	1,700
令和 6 年度と令和 7 年度計画の収入比率							107%
令和 6 年度と令和 7 年度計画の支出比率							99.6%
令和 6 年度と令和 7 年度計画の差額比率							%
収入・支出・差額についての管理者意見							
収入はサービス提供加算分が収入減となる。							
支出は電気代、ガソリン代、食材費、修繕費等で支出の増加は避けられないため、節約を継続するとともにムダがないか精査していく。							

令和7年度目標利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度実績	20.5	21.5	21.5	20.2	20.6	21.0	20.8/月平均
月合計（人）	533	561	539	546	516	526	536
令和7年度目標	22.8	23.1	23.7	23.4	23.6	23.0	23.2/月平均
月合計（人）	593	623	593	633	613	598	608

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度実績	22.4	23.4	21.9	21.8	21.7	22.3	21.5/月平均
月合計（人）	538	610	570	525	520	580	547
令和7年度目標	23.4	22.7	22.3	21.8	21.8	22.4	22.8/月平均
月合計（人）	565	500	535	455	455	515	564

* 令和6年度実績2月3月は予想です。

ヘルパーステーションサンライフ御立

令和7年度 事業計画書（案）

今年度スローガンでもある「すべてを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」を念頭に置き行動する。

今年度目標としては、誰が欠けても成立する職場作り。大まかな担当業務割は継続するが、この人にしかできない仕事を減らし、職員全員が幅広く周知しておく事に力を注いでいきたい。

前年度常勤職員一人退職により労働力は減ではあるが、収入および利用者人数がなるべく現状を維持できる様、努めていきたい。

1. 人材育成・介護力向上に向けて

現在継続している、全体研修や個人別研修を更にレベルアップする。

個人の介護力のばらつきを無くす為にも、ヘルパー個人の到達度レベルをしっかりと把握し改善していきたい。初回時の職員との同行訪問は勿論、職員の利用者様宅へ伺う機会を増やし、援助内容・到達度・把握レベルの確認・利用者様からの声の聞き取り。現状に満足せず、今後のサービスに繋げられる様な課題をしっかりと提供し、ヘルパーが訪問する上での不安を払拭出来るサポート体制の確立に、共に取り組んでいきたい。

更に利用者様の変化にいち早く気付くことの出来る「観察力」「聴く力」を習得し、「コミュニケーション能力」の向上に努める。

今一度、初心に戻り、訪問介護はチームワークである事を徹底する。利用者様は勿論、ヘルパー同士信頼関係を築き、足りない所を補い合える関係性の構築。一人ひとりがヘルパーステーションの看板を背負い、サービス提供している事への周知徹底を行う。

2. 虐待・ハラスメント防止対策の強化

「高齢者の虐待防止の必要な措置」として義務付けられる事業所内での虐待に関する研修の実施等、担当者を選定し、今まで以上に確実に行っていきたい。

法人で行うパワハラ・セクハラ・虐待防止研修にも参加し、定期的に勉強する機会を設け、登録ヘルパーにも共有する。また事業所全体で虐待等に関する意識改革を行うことで、虐待を絶対に起こさない。そして在宅での虐待の早期発見にも努められるよう、健全な事業所を目指していく。

3. 自費サービスの内容拡充

介護保険では受ける事が出来ないサービスを自費で取り扱う様になり9年。10割ご負担という高額な金額にも関わらず、毎月利用される利用者様はおられる。現在の介護保険上ルールとして、要介護度によって受けられるサービスが変わってくることから、最近では、規定にないサービスの問い合わせが増えている。利用者様のニーズに沿った内容拡充を早急に進め、利用者様に一番に寄り添ったサービスを提供していけたらと強く思う。

4. 収入確保への取り組み

常勤職員の退職により、利用者受け入れ枠は頭打ちとなっている。
 これ以上の定員増は見込めない現状ではある。労働力は減ったが、現状の収入維持・利用者人数維持に努め、その上で利用の問い合わせがあった際には、柔軟に体制を整え、お断りする事が無いように努める。
 引き続き、ヘルパー通信等の内部発信は怠らず、居宅介護支援事業所・包括支援センターとの連携も密に図り、対応していきたい。

5. 有給休暇の取得

「ヘルパーには連続休暇は取れない」と言われていた数年前に比べると、スムーズに取得できていると感じる。一人ひとりの取得状況を把握し、声掛けしながら、心身ともにリフレッシュした形で業務に取り組んでもらえる職場環境を整える。

※令和6年度2月3月は予想である。

※収入は介護報酬の収入を記載。

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	2,935	2,919	3,046	3,303	3,214	3,098	18,516
令和7年度収入計画	3,100	3,200	3,150	3,300	3,300	3,300	19,350
令和6年支出	2,475	2,545	4,064	3,725	2,558	2,551	17,918
令和7年支出計画	2,150	2,220	3,400	2,750	2,230	2,220	14,955
令和6年収支差額	466	374	-1,018	-422	656	547	597
令和7年収支差額計画	950	980	-250	550	1,070	1,080	4,380
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	3,277	3,244	3,287	3,070	3,000	3,100	37,494
令和7年度収入計画	3,300	3,350	3,300	3,100	3,100	3,200	38,700
令和6年支出	2,632	2,507	4,556	2,866	2,500	2,500	35,482
令和7年支出計画	2,300	2,170	3,900	2,540	2,200	2,200	30,265
令和6年収支差額	645	737	-1,269	204	500	600	2,014
令和7年収支差額計画	1,080	1,180	-600	560	900	1,000	8,420
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							103%
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							85%
令和6年度と令和7年度計画の差額比率							418%

収入・支出・差額についての管理者意見。

前年度12月、常勤1名退職により、人件費が若干の減少となると予想される。
 しかし物価高騰に伴う支出増や、社用車の車検代等にかかる支出もあり。
 大きなものの購入は予定していないが、突発的な支出も考えられる。

サンライフ御立居宅介護支援事業所

令和7年度 事業計画書（案）

年間目標

経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」に対し、ケアマネとして、事業所内、各サービス事業所の多職種と連携し、利用者、家族へ相談援助や適切なサービスを提案し、元気に在宅生活が継続できるよう支援することを目標とする。

収入については、R6.7～常勤1名育休中であり、常勤2名非常勤2名体制となっている。担当件数はほぼ上限で推移しているが、要介護者の依頼が少なく、要支援者が増えている。育休復帰職員1名分の担当件数を考えると多くの利用者の確保が急務となる。育休復帰後、復帰職員の負担が大きくなるように支援したい。引き続き、担当件数の増加、収入増を目指す。

1. 担当利用者・収入の確保

4名体制となり担当件数は上限となっている。R7.7には育休職員が復帰するため、復帰までに、少しずつ利用者数を増やし対応したい。要支援の担当が増え、長年要支援のまま推移する方も多い。病院や地域包括支援センターへの営業を行い新規利用者の獲得に努めたい。状態変化による入退院や終了等も多くあるため、定期的に利用状況を把握し新規依頼時にすぐに動ける体制を整える。担当の利用者からの紹介等も積極的に受け入れるようにし、特に地域の方の相談等も迅速に対応できるよう努める。

2. サービスの質の向上

援助を進めていくにあたり困難なケースや問題点がでてきた時等、事業所内で話し合いを行い、全てをフォローするのではなく、各職員が自分で考える、周りを見て動くことができるように、ヒントを与えてお互いにステップアップできるように関わる。また、各地域包括支援センターと連携を取り、情報共有を行うことで精神面でのケアと援助がスムーズに行えるよう努める。研修会等にも積極的に参加するよう心がけ最新情報等は事業所内で共有できるよう情報交換を行う。

3. 虐待防止対策

法人の虐待防止研修への参加に加え、事業所内でも研修を行い、学ぶ機会を確保する。虐待の早期発見、早期対応ができるように、各事業所と連携を行う。

4. 有給休暇の取得について

年次有給休暇の5日取得に加えて休みがとりやすい環境を整えることで、リフレッシュできる機会をもつ。きちんと取得するため定期的に声掛けを行う。

5. 特定事業所集中減算の回避

訪問介護、通所介護、地域密着型通所介護、福祉用具貸与のみが対象。減算にならないように現在もグループ内に加え、他事業所の紹介を行っている。引き続き減算にならないよう注意し各事業所からの情報等を収集しておき、紹介できるようにしておく。

6. 介護予防支援

要支援者は多いものの、復帰職員の担当件数を考えると大きく余裕があるため、要支援者の担当依頼があれば積極的に新規獲得に努める。

7. 年間収支の予測

※収入は介護報酬の収入を記載

※令和7年度2月3月は予想である。

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	1,923	1,832	2,069	2,058	2,023	2,045	11,950
令和7年度収入計画	2,050	2,050	2,050	2,060	2,110	2,160	12,480
令和6年度支出	1,781	1,798	3,219	3,629	1,498	1,471	13,396
令和7年度支出計画	1,600	1,600	2,610	3,240	1,900	1,900	12,850
令和6年度収支差額	142	34	-1,150	-1,571	525	574	-1,446
令和7年収支差額計画	450	450	-560	-1,180	210	260	-370
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	2,122	2,049	2,042	2,051	2,050	2,050	24,314
令和7年度収入計画	2,200	2,220	2,220	2,280	2,280	2,330	26,010
令和6年度支出	1,563	1,439	2,595	1,579	1,600	1,600	23,772
令和7年度支出計画	1,950	1,950	3,300	1,950	1,950	1,950	25,900
令和6年度収支差額	559	610	-553	472	450	450	542
令和7年収支差額計画	250	270	-1,080	330	330	380	110
令和6年度と令和7年度計画の収入比率				107.0%			
令和6年度と令和7年度計画の支出比率				109.0%			
令和6年度と令和7年度計画の差額比率				20.3%			

収入・支出・差額についての管理者意見

収入は、育休明けの職員の担当件数を確保できれば増える。

支出は、昨年は大きな支出なし。今年も引き続きケアプラン連携システムの利用は行おうが、それ以外の大きな支出は現状では考えていない。職員が復帰するため、人件費の増加がある。前年度は新規利用者の紹介も多かったが、それ以上に、入院、入所、永眠等の担当終了が多かった。地域包括支援センターや病院への営業活動を行い、新規利用者の獲得、認定調査依頼による収入増加を目指すことで収入が増加するように努めたい。

デイサービスサンライフ安室

令和7年度 事業計画書（案）

「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をスローガンに、利用者様が楽しく快適に過ごして頂けるような施設作りを行っていく。また、昨年度に引き続き付随業務の効率化を図り、利用者様と触れ合う時間を増やし、より良いサービスの提供ができるよう取り組んでいく。

また、営業活動の見直しを図り、担当ケアマネージャー様との連携・関わりを深め、よりきめ細やかな利用者対応を行うことで、利用者数の増加・安定した収入の確保を目指す。

1. サービス内容の向上

昨年度はセラピスト不在の時期があり、ニーズに沿ったリハビリの提供が困難な時期もあったが、昨年7月より再度セラピストを採用し、午前中はマシンリハビリ、午後はセラピストによる個別リハビリと、以前以上にリハビリの内容が充実している。

利用者様・担当ケアマネージャー様からも好評を得ており、今後も継続してリハビリの充実を図っていききたい。また、昨年度に訪問散髪を月1回から月2回に変更し、利用しやすくなったと好評を得ており、現在月1回の移動スーパー・移動パン屋に関しても、ご利用される方も多いため、月2回に変更できるか検討していききたい。

個別のレクリエーションに関しては、習字や手芸・工作・お菓子作りなどに加え、昨年度はネイルなどの美容レクリエーションも実施した。特に女性利用者様の反響がよかったが、男性利用者様にも楽しんでいただけるよう改善を加え、今後も継続していききたい。

2. 職員の質の向上・健康増進

昨年度より、全職員参加の感染症・災害への対応やハラスメント対策、高齢者虐待防止の研修を法人全体で実施しているが、引き続き研修・訓練等を実施し基礎知識の向上に努めたい。健康増進に関しては、全職員が計画的に有給休暇を取得し、身体面・精神面共に健やかに働くことが出来る環境を整えていく。又年一度の健康診断以外にも人間ドックを積極的に利用し、病気の早期発見・予防に努め無理なく長期的に就業できるよう努めていきたい。

3. 虐待防止対策について

法人全体で実施する研修に参加し、職員一人一人が虐待への知識を深め意識改革を行う。
また、定期的に職員への面談を実施し、意見交換・相談しやすい職場づくりを目指す。

4. 業務の見直し・効率化

昨年度に引き続き、各職種が業務に集中できるよう付随業務の見直し・簡素化を図っていく。また、5S活動も引き続き行い、効率よく働きやすい職場環境をさらに整えていきたい。

5. 介護報酬について

ここ数年管理者が定着できておらず、また昨年度は度重なる職員の異動等があり、利用者様・利用者家族様・ケアマネージャー様からの施設に対する信頼度が低下してきている印象がある。そういった面も利用者数の減少に影響していると思われる。今年度は利用者対応や見学対応など日々の業務をより丁寧に行い、利用者家族・ケアマネージャーからの信頼を取り戻すことで、新規利用者の獲得・収入増を目指していく。

支出においては、施設の大型機器や備品なども老朽化により修理が必要な物が多くなってきており、今後まとまった金額の支出が続く可能性が予想される。また昨今の人件費の上昇、物価高騰により更なる支出の増加が見込まれる。細部にわたる日々の支出の見直し、また光熱費等の見直しを徹底し、支出を抑えていきたい。

令和7年度予想利用人数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度実績	26.5	25.4	26.1	24.6	22.4	22.4	24.4 / 平均
月合計	689	686	628	665	603	559	3,830
令和7年度予想	22.5	22.5	23.0	23.5	23.5	23.5	23.1 / 平均
月合計	585	607	575	634	611	611	3,623

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度実績	22.6	22.5	22.6	21.9	21.9	21.9	22.2 / 平均
月合計	609	584	587	524	524	569	7,227
令和7年度予想	24.0	24.0	23.5	23.5	23.5	23.5	23.6 / 平均
月合計	648	600	634	564	564	624	7,257

令和6年度2・3月は予想である。

令和7年度収支計画（令和6年度2・3月は予想である）

（単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	5,813	5,918	5,496	5,648	5,526	4,883	33,284
令和7年度収入計画	5,543	5,774	5,440	6,051	5,810	5,810	34,428
令和6年度支出	5,979	5,806	7,283	7,397	6,352	5,413	38,230
令和7年度支出計画	4,749	4,749	5,799	4,749	5,749	5,049	30,844
令和6年度収支差額	-166	112	-1,787	-1,749	-826	-530	-4,946
令和7年度収支差額計画	794	1,025	-359	1,302	61	761	3,584
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	6,227	5,379	5,475	4,865	4,865	5,270	65,365
令和7年度収入計画	6,190	5,697	6,051	5,327	5,327	5,943	68,963
令和6年度支出	5,066	4,929	6,855	4,591	4,591	4,973	69,225
令和7年度支出計画	4,999	4,749	5,549	4,999	4,749	5,049	60,938
令和6年度収支差額	1,161	450	-1,380	274	274	297	-3,870
令和7年度収支差額計画	1,191	948	502	328	578	894	8,025
令和6年度と令和7年度計画の収入比率					105	%	
令和6年度と令和7年度計画の支出比率					88	%	
令和6年度と令和7年度計画の差額比率					%		
<p>収入・支出・差額についての管理者意見</p> <p>（収入について）</p> <p>令和6年度は個別機能訓練加算を見算定の時期があり収入減となったが、令和7年度は算定可能となった為前年度と比較して収入は増加する見込みである。</p> <p>（支出について）</p> <p>施設創立14年目を迎えるにあたり、設備修繕・買い替えが続いているため修繕費等は増加傾向である。</p> <p>（収支差額について）</p> <p>昨年度は度重なる人事異動等があり、人件費の大幅な増加があった為赤字となったが、今年度は修繕費等の増加は見られるが、加算等による収入増を見込み、黒字転化が見込まれる。</p>							

姫路市安室地域包括支援センター

令和7年度 事業計画書（案）

姫路市においても2035年に向けて85歳以上の高齢者が増え続け、介護を担う人口が減少していく。また、今後急増が見込まれる要支援者に対する財源は不足している。2040年においても地域包括ケアシステムを持続するために、介護保険の利用について意識を改革していくことが緊急の課題となっている。まずは行政が意識を変えていく必要があるが、それにともない、地域包括支援センターでも多様なサービスを選んでもらうための介護予防ケアマネジメントの展開が必要となってくる。2027年度の第10期計画に向けて市の方針に合わせて、総合相談の対応をしていきたい。

事業所内連携については、今年度も引き続き毎日朝礼を実施し、伝達事項や研修報告、地域役員からの情報、新たな相談者・継続相談者等の報告を行うことで、事業所内での情報共有を確実に行っていく。また、月1回の職員会議を継続して行い、毎月1人ずつ担当者を決め、主催してもらうことで、各職員のスキルアップにつなげていく。また、困難事例等に関しては、ホワイトボードを使用し、可視化した事例検討をすることで、情報の整理と課題抽出を行い適切な支援ができるようにしていく。相談対応者については、年に3回程度、終結について話し合いを行い、メリハリをつけた支援をしていくよう努める。

高齢者虐待に関しては、年々増加傾向にあり、今年度も多数の通報が予測される。また、虐待内容も多様化しており、対応力が求められている。各関係機関とも連携を密にし、早期発見・早期対応につながるよう努める。対応については、姫路市高齢者虐待等マニュアルに基づき（虐待疑いの場合には）、市や中央保健福祉センター等関係機関と連携をとり、対応していく。事業所としては、職員会議時に虐待防止に関する研修を実施するとともに、利用者等の人権の擁護・虐待の防止に取り組んでいく。

研修については、研修案内を事業所内で回覧し、受講したい研修があれば受けることができるようにしている。オンライン研修をうまく取り入れながら、必要な研修を受けることや、研修内容を事業所内で共有することで、職員全体でのスキルアップにつなげる。

認知症カフェについては、2か所で定期開催できている。今年度も楽しく継続できるよう、開催支援を継続し、認知症予防・早期発見・啓発に取り組んでいく。また、認知症に関する講座についても、年1回は実施し、認知症の方が地域で暮らしていくことができる地域づくりに取り組んでいきたい。認知症早期発見・早期受診のための気づきのチェックリストについては各グループで今年度も継続して実施していく。

いきいき百歳体操については、今年度も、各グループでフレイルチェックを行い、診断を元に、専門職派遣を利用し、地域の介護予防につなげていきたい。地区によっては後継者不足等で老人会が閉鎖となり、いきいき百歳体操グループが減少している。あらためて、老人会の代わりとなる受け皿も地域と相談しながら、普及啓発に努めていきたい。

また、介護予防については、安室・安室東両公民館での介護予防講座の開催が継続でき

ている。安室東公民館では公民館講座で年1回、安室公民館では毎月開催されている「認知症・介護予防教室」の中で開催できており、今年度も開催の予定である。他サービス事業所とも連携し、多くの地域住民が興味を持って参加してもらえるよう開催していきたい。

認知症サポーター養成講座については、昨年度は開催の機会なかったため、今年度は1回開催できるよう検討していく。

今年度も、センター便りを3ヶ月に1回、地域役員向け活動報告書を2ヶ月に1回発行し、地域包括支援センターの啓発、地域の実情把握を行うとともに、地域との連携強化に取り組んでいきたい。

※令和6年度2月3月は予想である。

※収入は姫路市からの委託料・介護報酬の収入を記載。

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	3,494	3,467	3,500	3,478	3,462	3,498	20,899
令和7年度収入計画	3,492	3,492	3,512	3,492	3,482	3,502	20,972
令和6年度支出	2,673	2,773	5,544	4,002	2,658	2,625	20,275
令和7年度支出計画	2,740	2,850	5,590	4,150	2,760	2,800	20,890
令和6年度収支差額	821	694	-2,044	-524	804	873	624
令和7年度収支差額計画	752	642	-2,078	-658	722	702	82
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	3,490	3,449	3,473	3,454	3,492	3,492	41,749
令和7年度収入計画	3,512	3,502	3,492	3,482	3,492	3,492	41,944
令和6年度支出	2,813	2,652	5,689	2,951	2,730	2,920	40,030
令和7年度支出計画	4,000	2,950	5,650	2,880	2,750	2,800	41,920
令和6年度収支差額	677	797	-2,216	503	762	572	1,719
令和7年度収支差額計画	-488	552	-2,158	602	742	692	24
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							100%
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							105%
令和6年度と令和7年度計画の差額比率							1%
収入・支出・差額についての管理者意見							
<ul style="list-style-type: none"> ・収入計画では、姫路市からの委託料については、未定のため前年度と同じとしている。 ・支出計画については、Windows10がサポート終了のためパソコン買替予定。 							

特別養護老人ホームサンライフ土山

令和7年度 事業計画書（案）

昨年度から引き続く法人の経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」を踏まえ、スタッフ個々、各ユニット、施設が今の課題と真摯に向き合い、僅かながら着実に一步一步前へ踏み出して行く。また、介護人材の確保により安定したサービスの提供を目指したい。

1. 介護人材の確保

介護業務にとり昼や夕の食事時は人手が必要になる。昨年は体調不良等により急な欠勤者も多い状態にあった。スタッフ個々の体調管理を促し欠勤者を無くすことはもちろんのこと、施設長や相談員も応援に入っている中で、それ以外の看護や厨房等の幅広い職種で利用者様のケアに携わり充足を図ることで、時間外労働時間の減少をまた、機能訓練指導員も新たなスタッフへ変わる為、スムーズな引継ぎの元、支障なく利用者様への機能訓練の実施を行なう。

2. 余暇活動の充実

各ユニットでレクリエーション担当者を決め、口腔体操や運動、音楽に取り組む。ネット環境を活用し、体操やカラオケ等を実施する。使用が出来ていない物品の見直しを図り、積極的な活用を進める。

3. 5S活動の推進

昨年度から引き続き5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）活動を意識し、利用者様にとっても快適な環境を作る。特にキッチンやデスク周りの物品を整理し、無駄を省き効率的な時間の使い方が出来るよう勧める。排泄や褥瘡の加算関係により計画書類が増えているため、書類の保管専用の棚を設置し、適切な管理を行なう。

4. ユニット目標

- ・2 西「利用者様・他職員の立場に立って行動できるように心がけ、利用者様の状態変化や違和感を早期発見できるよう、情報共有しやすい環境を作る。」
- ・2 東「利用者様と職員間のコミュニケーションを図る。」
- ・3 西「利用者様一人一人に合ったケアを心がける。」
- ・4 西「職員間でコミュニケーションを取り共有を行う。」
- ・4 東「責任感をもって仕事をする。」
- ・5 西「ルールを守る」「業務に責任をもつ」

・5 東「多職種とコミュニケーションをとり、報告・連絡・相談していく」

5. 収支について

営業活動により施設の情報を外部や地域へと発信することで、特養入所待機者を確保したい。ショートステイご利用の利用者様も在宅生活が困難になった際の受け皿として、特養入所へとスムーズに移行できるようショートステイ部署とも密な連携を図る。平均稼働率 97%を目指したい。

令和7年度 特養研修計画(特養・ショート・デイ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護・医療研修	電話対応について 特定技能必須	車両操作	薬について	ポジショニング	リハビリ訓練の仕方	防災について
担当者	事務所	デイ	医務	厚生PT	鈴木	防災委員会
介護講習	シーツ交換について	口腔体操	認知症の理解	車椅子への移乗	移動介助(車いす、杖、歩行器)	食事時の姿勢と介助
担当者 (リーダー)	2階西	2階東	3階西	ショート	4階西	4階東
ユニットリーダー対象	仕事の教え方	食中毒について	糖尿病	介護報酬について	法令 監査	防災食について (BCP)
担当者	有本	毛利	医務	下川	有本 世良	毛利
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護・医療研修	AED、心肺蘇生	認知症について	腰痛予防について	看取りについて	事故予防について	接遇について
担当者	医務(特養)	認知症委員会	衛生管理委員会	看取り委員会	リスク委員会	接遇委員会
介護講習	身じたく	排泄介助	マスク・手袋の脱着・手洗いについて	口腔ケア・整容	・寝返り(姿勢の変更)・起き上がり	入浴介助・清拭
担当者 (リーダー)	5階西	5階東	2階西、東	3階西、東	4階西、東	5階西、東
ユニットリーダー対象	機能訓練	認定調査	QC活動	高齢者虐待	接遇	アルツハイマー型認知症
担当者	鈴木	世良	船引	世良	政次	医務

令和7年度介護状況目標

項目		令和6年度2月末状況 (入所者70名) 要介護度3.94	令和7年度3月末目標 (入所者70名)
日中オムツ使用率		34名 48%	25名 36%
入浴統計	特浴	17名 26%	16名 23%
	リフト浴	49名 74%	53名 76%
	個浴	0名 0%	1名 3%
食事形態	普通食	25名 37%	30名 43%
	刻み食	12名 18%	16名 23%
	極刻み食	19名 28%	12名 17%
	ミキサー食	12名 18%	12名 17%
	経管栄養	0名 0%	0名 0%
褥瘡者		3名	0名
身体拘束		0名	0名
看取り介護実施※		16名 59%	7名 70%

※看取り介護実施率＝看取り介護実施者/全退所
(急死除く)

※令和6年度の実数は入院者除く

令和7年度収支計画 ※令和6年度2月3月は予想である。

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	30,712	32,825	31,268	32,949	33,009	32,682	164,739
令和7年度収入計画	31,697	32,727	31,697	32,727	32,727	31,697	193,272
令和6年度支出	26,480	23,354	36,038	31,079	23,839	23,946	164,739
令和7年度支出計画	24,531	23,251	34,491	30,934	24,282	23,563	161,052
令和6年度収支差額	4,231	9,470	-4,769	1,870	9,169	7,736	27,707
令和7年度収支差額計画	7,166	9,476	-2,794	1,793	8,445	8,134	32,220
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	33,180	32,288	32,487	32,790	29,574	32,004	384,772
令和7年度収入計画	32,727	31,697	32,727	32,727	29,678	32,727	385,555
令和6年度支出	23,293	22,446	33,966	23,583	23,337	27,534	318,900
令和7年度支出計画	25,084	23,112	34,726	24,399	23,800	25,681	317,854
令和6年度収支差額	9,886	9,842	-1,478	9,206	6,239	4,470	65,872
令和7年度収支差額計画	7,643	8,585	-1,999	8,328	5,878	7,046	67,701
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							100.2%
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							99.6%
令和6年度と令和7年度計画の差額比率							102.7%

収入・支出・差額についての管理者意見

今年度の稼働率は95.7%であった為、令和7年度は97%以上を目指し短期入居の協力を得ながら空床利用も積極的に行い僅かでも収入を増やしていきたい。支出においては人件費をはじめ、全てが上昇傾向にある為、QC活動で取り組んだ節約を継続すると共に人員配置にも気をつけていきたい。

サンライフ土山ショートステイ

令和7年度 事業計画書（案）

今年度は「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」を経営スローガンに掲げ、職員一人ひとりが責任を持ち、それぞれの行なうべき業務を遂行し、報告・連絡・相談を確実にしない、職員間でよりコミュニケーションを図ることで、漏れ、忘れ物、事故などをなくし、利用者様に安心して過ごして頂けるようサービスを提供していく。また職員一人ひとりが、引き続き新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症予防を確実にしない、責任ある行動に努めていく。

ショートステイとして、安定した稼働率の維持、向上に努める。また、外出やおやつレク等の行事、レクリエーション実施し、利用者様に楽しみを持った生活を送って頂けるよう、顧客満足度の向上を図りたい。

1. 人材育成

- I. 技術不足の職員に対し、日ごろからコミュニケーションを図ることで苦手分野を把握し、業務の中で指導し、解決していく。また、指導する側も伝えることで自分自身を見つめ直し、技術の向上を目指す。
- II. 中堅職員に対し、仕事のやりがい、責任感を持たせるため、施設委員やユニット内の中心的な仕事を担っていくよう、割り振りを行なう。リーダー、リーダー候補職員には、ショートステイの見学対応、予約、契約業務が一人で行えるように、それぞれに同行する機会を設け、指導を行なう。
- III. 業務において基礎である報告・連絡・相談が疎かになっている。出勤前はユニットのノートに必ず目を通し、寿の掲示板を確認することを徹底する。また、共有すべき情報は記録し、職員間で積極的に声をかけ合い共有できるようにする。
- IV. 職員の健康増進のため、生活支援休暇の使用やリフレッシュ休暇等、適切な有休の使用を促していく。

2. レクリエーションの充実

- I. 定期的に外出やおやつレクを実施し、利用者様に楽しみを持った生活を送って頂けるように支援することで、顧客満足度の向上を図る。
- II. 職員自身も取り組むことで介護の楽しさを伝え、実施することでチームワークの向上、幅広い柔軟な発想へとつなげていく。
- III. 実施にあたり、管理栄養士と連携して、季節に合った食べ物を軸に検討し、誤嚥

などに注意するなど、十分に対策を行なう。

3. 虐待予防

- I. 常勤、非常勤を問わず、介護にかかわる全職員に法人全体の虐待防止研修を行なう。改善が見込めない職員やリスクのある職員については、上司の判断でとくべつ研修に参加させる。
- II. ユニット会議などで、毎回、介護や利用者様の対応で困っていることを議題に挙げ、対策を行なう。困っていることや問題などが上司や他の職員に相談、報告しやすい体制、環境づくりに努める。
- III. 上司は定期的に勤務状況をカメラでチェックし、おかしいことがあれば、上司に報告する。職員は、カメラで記録されていることを意識して仕事をする。見て見ぬふりをすることなく、その場で注意し合える環境づくりに努める。
- IV. 身体拘束委員会、虐待防止委員会を設置し、3か月に1回以上、または必要に応じ、実施する。

4. 事故の防止

事故を未然に防ぐためにヒヤリハットの記入をし、有効活用することを指導していく。また、事故が起きた際、事故報告書を提出して終わりにするのではなく、その後にしつかりと部署内で話し合い、必要に応じて他部署と協力し、再発防止策を徹底していく。事故防止に努め、事故件数を減らし、事故発生時にかかる労力の削減を目指す。

5. ユニット目標

「忘れ物を減らす」

6. 収入・利用者様の確保

今年度は、月稼働率100%を目標とし、利用者様の獲得に努めていく。

新規利用者様の獲得だけでなく、今利用して頂いている利用者様、家族様の満足度を高め、単発利用で終わるのではなく、定期的に利用して頂けるサービスを行なっていく。そのために、職員や介護の質の向上、レクリエーションの実施を行なっていく。

ロングショートの定着を図るため、都度、各事業所と連絡を行なう際は、ショート、ロングともに利用希望者の有無の確認をする。

入院ベッドの利用やロングから特養にスムーズに移行させるために、特養相談員と密に連携をとることはもちろん、医務とも協力し、部屋の空きが出ないようにする。

令和7年度収支計画 ※令和6年度2月3月は予想である。

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	4,385	4,441	4,939	4,420	5,800	4,564	28,549
令和7年度収入計画	4,320	4,457	4,331	4,481	4,457	4,320	26,366
令和6年度支出	4,388	2,718	4,213	3,074	3,062	2,929	20,384
令和7年度支出計画	4,497	2,786	4,316	3,152	3,139	3,003	20,893
令和6年度収支差額	-3	1,723	726	1,346	2,738	1,635	8,165
令和7年度収支差額計画	-177	1,671	15	1,329	1,318	1,317	5,473
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	3,830	3,810	4,366	3,804	4,009	4,397	52,765
令和7年度収入計画	4,468	4,331	4,435	4,422	4,007	4,435	52,464
令和6年度支出	3,052	2,815	4,908	3,100	3,316	3,073	40,658
令和7年度支出計画	3,128	2,885	5,032	3,157	3,402	3,152	41,648
令和6年度収支差額	778	995	-542	694	693	1,324	12,107
令和7年度収支差額計画	1,340	1,446	-597	1,265	605	1,283	10,816
令和6年度と令和7年度計画の収入比率				99.4%			
令和6年度と令和7年度計画の支出比率				102.4%			
令和6年度と令和7年度計画の差額比率				89.3%			
収入・支出・差額についての管理者意見							

特別養護老人ホームサンライフ土山（医務）

令和7年度 事業計画書（案）

R6年度は、新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスが発生し当施設でも感染症が何度か流行した。

施設として、重症化しやすい高齢者を守るために感染対策の徹底と継続が必要となる。

感染症発生防止と同時に、入居者への質の高いケアや安心・安全な医療・看護を提供するために、引き続き看護体制の充実に努めていきたい。

1. 新型コロナウイルス・インフルエンザウイルス等感染症対策の継続

- I. 長期間（数年）にわたる感染症対策の為マンネリ化・疲弊の防止に努める。
- II. 日頃から全職員が正しい感染対策が敏速に実施できるように啓発活動に努める。
- III. 感染委員会を主として、発症時に備えたシミュレーション、研修の実施、過去の集団発生の反省を行い次への感染症発生防止に努める。
- IV. 入居者、職員のワクチン接種が確実に安全に行え、接種後の対応が迅速にできるように協力病院と密に連携を取る。
- V. 入居者の感染兆候出現時には速やかに感染対策を実施し感染症流行防止に努める。また、感染兆候のある職員は出勤する前に必ず施設長に相談と病院受診をするように継続して注意喚起する。
- VI. 感染症発症時には、基礎疾患が悪化・重症化しないよう異常の早期発見に努め、速やかに治療が受けられるように協力病院に働きかける。

2. 他職種と連携・協働し、安全・安心な医療・看護の提供

- I. 他職種とのチームケアを重視し、カンファレンス等を用い入居者の身体・精神状態や生活機能のアセスメント・情報共有を行い、ニーズに沿ったケアを提供する。
- II. ユニットの滞在する時間を増やし他職種・家族との連携も強化する。
- III. 昨年度ターミナルで看取りを同意された方は31名であった。本年度も、入居者の尊厳を守り、看取り介護の充実と体制の構築を目指す。
- IV. 各施設医と密に連携を取り体調不良者の早期受診等に努め入院回避に取り組み、高稼働率維持に寄与する。
- V. 各施設医との問題点について協議し改善を図り、入居者・家族にとって理解していただける医療・看護提供に努める。
- VI. 問題意識を持った業務を実施し他職種と連携し改善できることは、積極的に取り入れる。

3. キャリアアップ・人材育成

- I. 外部研修への積極的な参加や実地研修を取り入れ、問題点を明確化し改善する。
- II. 施設内研修を実施し、知識やスキルの向上を図る。
- III. 介護士が入居者の状態を把握できるように伝達方法を工夫し、情報共有を行いよりよいケアが提供できるように努める。
- IV. 現場における業務でのワンポイント教育を継続し看護技術・知識の向上に努める。

4. 健康管理

- I. 入居者・職員の健康・環境にも配慮し、安全・安心に過ごせるよう努める。
- II. 新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスに対するワクチン接種を進め、発症の予防や感染症の流行防止に努める。
- III. 研修を行い職員の健康増進に配慮する。日々の関わりを大切にし、身体面だけでなく精神面に対しても相談できるような環境を整えていく。

5. 安全管理

- I. 事故やヒヤリハットの防止の為、発生時の原因と対策が適切であることを介護士は生活面から看護師は医療・看護面と異なる視点で協議し入居者にとって安全・安楽な生活が確保できるよう事故の減少と再発防止に取り組む。
- II. 転倒・転落・外傷・誤薬など事故発生時は入居者の状態観察を綿密に行い、医療ケアが必要であるか適切な判断と、必要に応じたケアの実施。

6. 業務の簡素化・効率化をはかる

- I. 常に創意工夫に心がけ、定期的に業務・環境の簡素化・効率化を図る。
- II. 残業時間の短縮に向けてアセスメント・ミーティングを行い、業務の均等化・簡素化・効率化をはかる。
- III. 複雑、多岐にわたる多忙な業務により身体的な疲弊やストレス削減の為、管理者・上長の今まで以上の現場視認及び常識的な業務が実施できるよう働きかけ健全な業務のもと、簡素化・効率化をはかる。

特別養護老人ホームサンライフ土山(厨房)

令和7年度 事業計画書 (案)

今年度は、栄養マネジメント強化加算におけるミールラウンドを強化し、より利用者様にあった食事形態で提供できるよう努める。また、食材費が高騰する中でも少しでも価格を抑え利用者様に喜んでもらえる食事提供を行いたい。

I 栄養マネジメント強化加算

現在、低栄養状態のリスクが高リスク及び中リスクに該当する利用者様は全体の44% (29名程度) に当たり、算定要件にある週3回以上のミールラウンドはなかなか厳しいながらもなんとか実施できている。令和6年度は強化加算し始めという事もあり、ミールラウンドも中・高リスクの方のみに行っていたが、今年度は低リスクの方にも目を向けていきたい。

II 献立と食材について

献立については、冷凍食材や加工食品だけではなく、安定しない気候の為生野菜も高騰している。新メニューを少しずつ増やしてはいるが、値上がり続けている野菜の使用を控え献立作成を行うと偏りが生じ、マンネリ化していることは否めない。

そして、主食であるお米の価格も令和6年2月と令和7年2月を比較すると1kg当たり157円上昇している。今後も単価のアップが予想される。

値上がり傾向が長期にわたり、安いものに変えられるものは変えてきた為、今後は大きな変更は難しい。麺料理の提供回数を増やすことも案として検討しており、具材のバリエーションを増やすことで利用者様に喜んでいただけるのではないかと考えている。

また、非常食の賞味期限が2025年に切れるものが複数ある為、計画的に献立に組み込みロスなく確実に消費していきたい。

III 厨房内の清掃について

床やフード、冷蔵庫のフィルター、シンク下、壁等、短時間ではできない清掃箇所が複数ある。開設から10年以上経つことから汚れも溜まってきており、計画的に清掃を行っていきたい。

IV 厨房の人員について

令和7年3月で通し勤務の職員が1名退職予定であるが、次の職員の採用が決まっていない為、4月以降人員が不足する可能性がある。新規職員の採用に努めるとともに既存の職員で協力し、厨房運営に支障をきたさないようにしたい。

デイサービスサンライフ土山

令和7年度 事業計画書（案）

経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をもとに職員一人ひとりが考え、助け合い、職員一丸となって業務に取り組めるようにしていきたい。感染対策として手洗い、うがい、消毒、換気を行い安心して、デイサービスを利用していただきたい。他者交流の場として、閉じこもり防止や社会参加に繋がるよう支援していきたい。またレクリエーションの内容を充実させ、ご利用者自身が持つ残存機能の維持・向上を図りたい。機能訓練を行い、身体機能の低下や認知症予防に努め、心身共に健康で在宅生活を続けていただけるよう支援していきたい。

1. 自立支援に向けての意欲の引き出し

レクリエーションを継続し、音楽や工作、行事等の活動で、脳の活性化も図っていききたい。デイサービスに来ることが楽しみになるよう、施設内でのレクリエーションや体操の仕方を考え、利用者様の意欲の引き出しを図っていききたい。機械を使った機能訓練だけでなく、毎日実施しているセラバンド体操や外出レクリエーションを通し、上下肢筋力の維持・低下予防を図る。また、洗濯物干しやおしぼり、タオルたたみ等の生活リハビリを取り入れ、日常作業への参加を促し、役割や生きがいを持って生活を送ることができるように支援する。

2. レクリエーションの充実

利用者様の意思を尊重し、自身で選んでいただいている選択レクリエーション（脳トレ・体操レク・音楽レク・YouTube を使用したレク・ゲーム等）や週替わりのレクリエーション、社会参加の機会が少ない利用者様に対し、楽しみのあるイベントや季節を感じられる外出レクを行う。また買い物外出を行うことで生活意欲の向上を図り、在宅で日常生活が送れるように支援していきたい。工作・おやつレクを行うことで体や手先を動かし、脳への刺激や介護予防に繋げることが出来るよう支援していきたい。

3. 職員の人材育成

職員一人ひとりの能力にバラつきがある。職員にアンケートを実施し何を苦手に行っているかを把握する。介護技術向上のためにその職員にあった研修を行い、職員一人ひとりの能力向上を図る。また、家族様や利用者様、外部からの見学者との接し方や適切な関わり方についても学ぶ機会を設ける。事故発生時の対応方法

の周知徹底、報告、原因分析を行い、職員間で情報を共有し、事故再発防止に努め、安全で快適なサービスを提供していきたい。

4. 家族や関係機関との連携の強化

利用者様の状態に変化があれば地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に連絡・相談をし、連携の強化を図る。家族様との連携においては、朝夕の送迎時や連絡帳にて交流を図る。利用者様や家族様から悩みや困りごと、また苦情やサービスに関する意見等、把握している情報を正確に担当ケアマネジャーに報告・連絡・相談する。日頃からコミュニケーションを深め、連携の強化を図り、利用者様の情報を共有しながら、状態の変化に速やかに対応出来るよう努める。

5. 利用者数の確保について

利用者数の確保について、引き続き、月初めに利用状況報告・利用実績報告を兼ね、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所へ出向き、パンフレットやデイ新聞にて、月間スケジュールや空き状況を伝え、新規獲得に繋げていく。また、チラシを地域住民にポスティングで配り、認知度アップに繋げる。デイサービスというものを知ってもらい、見学者を増やすことで新規獲得に繋げていく。既存の利用者様においては、お休みされる場合などは、別の日に振替利用していただくよう提案していく。デイから特養・ショートステイ・小規模多機能の利用へと繋がるよう、居宅を踏まえた連携の強化を図っていく。

6. 虐待防止対策

来年度も法人全体の虐待防止研修を受け、虐待に対する知識を深め虐待や身体拘束のない、適切な介護ができるように努める。利用者様や家族様の相談や苦情処理体制の整備を行う。悩みを一人で抱え込まないように定期的に職員に対しても面談を行い職員のストレスや感情コントロールができるように思いを傾聴することで虐待を未然に防げるように努める。また職員によっては対応が難しい利用者様に対して、対応が変わってもらう等の対策を行い、利用者様、職員、相互にストレスのないように配慮していきたい。

令和7年度目標利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度実績	26.1	25.8	27.2	25.1	23.8	24.8	25.5/月平均
月合計(人)	679	697	679	680	644	622	4,001
令和7年度目標	28	29.4	29.2	27.7	26.5	28.0	28.1/月平均
月合計(人)	738	793	731	748	689	728	4,427

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令6年度実績	26.6	26.8	26.2	24.4	32.4	33.0	28.2/月平均
月合計(人)	721	697	680	586	778	858	8,321
令和7年度目標	31.0	29.0	26.8	25.9	26.4	27.4	28.0/月平均
月合計(人)	837	725	724	621	633	712	8,679

* 令和6年度実績2月3月は予想で入れています。

令和7年度収支計画 ※令和6年度2月3月は予想である。 (単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	6,053	6,022	5,696	5,775	5,397	5,378	34,321
令和7年度収入計画	6,379	6,889	6,337	6,492	5,982	6,320	38,399
令和6年度支出	5,151	5,102	6,556	6,540	4,917	4,958	33,224
令和7年度支出計画	5,163	5,641	6,101	6,142	5,064	5,106	33,217
令和6年度収支差額	902	920	-860	-765	480	420	1,097
令和7年度収支差額計画	1,216	1,248	236	350	918	1,214	5,182
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	6,266	6,142	6,041	5,101	6,128	6,761	70,720
令和7年度収入計画	7,263	6,294	6,282	5,399	5,503	6,185	75,325
令和6年度支出	4,699	4,402	5,815	4,600	5,058	5,329	63,127
令和7年度支出計画	4,839	4,544	6,129	4,710	5,209	5,488	64,136
令和6年度収支差額	1,567	1,740	226	501	1,070	1,432	7,633
令和7年度収支差額計画	2,424	1,750	153	699	294	697	11,199
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							106%
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							101%
令和6年度と令和7年度計画の差額比率							146%

収入・支出・差額についての管理者意見

今年度職員不足の状態です。職員確保のため紹介料等で支出が増えています。収入については利用者人数が伸びず、前年度より売り上げが減少しています。来年度は月平均利用者数28名以上を目標に、チラシの配布や営業活動を行っていき、利用者増加を目指す。

サンライフ土山居宅介護支援事業所

令和7年度 事業計画書（案）

年間目標

要介護又要支援状態にある方に対して適正な居宅介護支援、介護予防支援を提供する。要介護、要支援者等の新規依頼を受け、利用者の心身の状況、置かれている環境に応じ利用者のサービスの選択及び家族等の意向に沿った介護サービス計画を作成し適切なサービスが提供できる様介護サービス事業者との連携調整を行い、利用者の残存能力に応じ自立した生活が出来る様に配慮して支援する。

又、入院中の利用者のスムーズな在宅移行に向け病院や関係機関と連携を図り在宅環境を整える。

I 安定した収入の確保

・病院など、感染対策で出入り制限されている場所がまだまだ多いが、研修会やカンファレンスの場などで直接に新規依頼の声掛けや、電話での依頼等個々に営業方法を考えながら継続して行い、新規利用者獲得に繋げる。

・新規依頼は、要支援者の依頼が多いが、今後の要介護者の獲得の為人数上限を考えながら対応し利用者に必要な区分変更の見直しを行いながら収入に繋げていく。

・委託認定調査については、意欲的に姫路市・他市の依頼を受け、収入増に繋げていく。

II. サービスの質の向上

・医療ニーズの高い方や独居問題・認知症の方の対応・社会資源等の取入れ等、課題解決に必要と思われる情報の収集に努め対応していく。

・研修会に参加し外部の居宅介護支援事業所のケアマネと情報交換や交流の機会を作り、知識向上に努め利用者対応を行っていく。

家族の関係性が薄いケースや、身元引受人が不在等問題案件にも包括と関わりを密に持ち協力しながら利用者にとって適切な環境作りを行っていく。

感染症・災害時の業務継続計画の見直しを行う

III. 事業所内の連携強化

・事業所内の業務が円滑に行える様に、全員でいつでも相談ができ、問題解決ができる環境作りを行う。

・事業所全体のプラン件数の把握を全員が行い業務のばらつきが出ない様協力して行く。

・地域の関係機関や他職種とのネットワーク作りを行い研修参加などによりマンパワーのUPを図る。

IV. 介護予防支援

- ・各地域包括支援センターに対し、営業活動を継続して行い、要介護者の新規依頼に繋がるように努める。
- ・委託プランについて、必要に応じて地域包括に、報告・相談を行ない利用者にとって必要な支援が出来るよう協力し対応していく。

※令和6年度2月3月は予想。

(単位千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	1210	1210	1342	1303	1245	1195	7505
令和7年度収入計画	1210	1210	1350	1310	1250	1200	7530
令和6年度支出	1037	1029	1938	1031	1050	1046	7133
令和7年度支出計画	1030	1000	1930	1000	1000	1000	6960
令和6年度収支差額	173	181	-415	272	195	149	555
令和7年度収支差額計画	180	210	-580	310	250	200	570
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	1262	1393	1359	1392	1285	1319	15515
令和7年度収入計画	1270	1400	1400	1400	1400	1400	15800
令和6年度支出	1063	1008	1988	1093	1005	2184	15474
令和7年度支出計画	1050	1000	1980	1093	1000	2100	15183
令和6年度収支差額	199	385	-629	299	280	-865	224
令和7年度収支差額計画	220	400	-580	307	400	-700	617
令和6年度と令和7年度計画の収入比率				1.8%増			
令和6年度と令和7年度計画の支出比率				1.9%減			
令和6年度と令和7年度計画の差額比率				10.1%増			
収入・支出・差額についての管理者意見							
支出の減の為に利用者獲得により収入を増やしニーズに合ったプランにて対応し信用をより得る。							

リハビリデイサービス サンライフ御立西

令和7年度 事業計画書(案)

経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をもとに、令和7年度は、職員一人ひとりが主体的に課題に向き合い、小さな改善を積み重ねることでサービスの質を高め、利用者の増加を目指す。現在の課題である「利用者数の伸び悩み」と「売上の減少」を改善し、リハビリ特化型デイサービスとしての認知度と利用者満足度の向上を両立することで、継続的な成長を実現し、利用者様や家族様に選んでいただけるデイサービスを目指す。

1. サービスの質の向上に向けた取り組み

リハビリプログラムの充実を図る。理学療法士による個別リハビリメニューを強化し、利用者一人ひとりの目標に応じたプログラムを提供する。また目標設定シートを活用し、利用者が達成感を得られる仕組みを作ることで、モチベーションアップに繋げていく。口腔ケアにおいても歯科衛生士による口腔機能向上プログラムを充実させ、口腔ケアの重要性を利用者や家族にアピールし、口腔機能の改善が全身の健康維持に繋がることを伝え、デイサービス利用の意義をより明確にする。個別リハビリ、生活リハビリ、口腔機能向上プログラムを組み合わせ、利用者の身体機能向上を支援するとともに、楽しみながら続け、できることを増やせるような取り組みを進め、利用者満足度の向上を図る。

2. リスクマネジメント対策

リハビリや日常生活動作の訓練中に、転倒・転落する可能性がある。特に、歩行訓練や移動時にリスクが高まるため、床の滑りやすさ、動線の確保など施設内安全点検を実施する。また、転倒リスクの高い利用者を特定し、歩行器や杖等の使用状況を確認し、適切なサポートを行う。口腔ケアにおける誤嚥リスク管理では、口腔ケアや食事中に誤嚥が発生する可能性がある。特に、嚥下機能が低下している利用者には注意が必要なため、誤嚥リスクの高い利用者を把握し、嚥下訓練を強化する。食事時の姿勢指導と歯科衛生士による定期的な口腔機能チェックを行う。感染症対策では、インフルエンザや新型コロナウイルス、ノロウイルスなどの感染症は、高齢者にとって重篤化のリスクが高いため、手指消毒と手洗いの徹底、定期的な換気、利用者・職員の健康チェック、ワクチン接種の推奨等、感染拡大を防ぐための徹底した対策を行う。職員全員がリスク意識を持ち、利用者の安全を最優先に考えた行動を徹底していく。

3. 利用者増加のためのマーケティング強化

ケアマネジャーとの関係を強化するため、定期的に情報提供を行う。サービスの強みや成功事例を伝えることで、信頼関係を築き、継続的な紹介に繋がっていきたい。また、ケアマネジャー向けの体験会・見学会を開催し、直接サービスを体験してもらう機会を設ける。新規利用者獲得においては、無料体験、施設見学対応を強化する。4月より、毎月15日をオープンデイの日とし、地域の方にデイサービスの魅力を積極的に発信し、認知度向上に繋がるよう広報活動の充実を図る。法人内にショート・グループホーム・特養・小規模多機能などの施設がある強みを活かし、施設間での情報共有を密にし、法人全体としての相乗効果を高める。

4. 虐待防止対策

身体拘束、高齢者虐待等、法人が行う研修会・勉強会に参加し、職員の意識向上を図る。高齢者虐待においては、ZOOMでの研修会に全職員が参加し、虐待の定義や種類、虐待となる事例を学び、早期発見、未然防止の意識を高める。また、職員のストレス管理においては、必要に応じて業務負担の軽減や相談体制の見直し等改善を図る。虐待が疑われる場合は、関係機関と連携し、迅速に対応し、適切な措置を講じる。虐待ゼロの施設を目指し、職員一人ひとりが高い意識を持って日々の業務に取り組んでいく。

5. 家族や関係機関との連携の強化

家族との連携については、送迎時や連絡ノート、担当者会議等を通じ、利用者の状況について情報交換を行い、相互の理解を深める。独居の利用者については、別居の家族等に必要な情報を提供する。利用者・家族の希望等を受け止め、信頼関係を築き、安心してサービスを使っていただけよう努める。居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携においては、担当ケアマネジャーに利用者の心身の状態の変化、サービス利用中の様子、生活上の問題点、本人や家族からのサービスに関する意見や要望等、把握している情報を正確に報告・連絡・相談する。日頃からコミュニケーションを深め、連携の強化を図り、状態の変化に速やかに対応出来るよう努める。

6. 収入と利用者数の確保

利用者数の確保については、月平均利用者数20.1名を目標とする。毎月初めに利用実績・空き状況・利用状況報告を兼ね、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターへ出向き、介護支援専門員との密接な関係を築き、新規利用者の獲得に努める。また、既存利用者へのサービス向上を図り、定着率向上と利用回数増加を目指し、収益アップに繋がっていきたい。支出においては、人件費や修繕費等支出増が見込まれる為、引き続き、水道光熱費等経費削減に取り組んでいく。

令和7年度目標利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度実績	17.3	18.2	17.8	19.3	19.11	19.44	18.5/平均
月合計(人)	449	490	444	520	516	486	2,905
令和7年度目標	19.3	19.5	19.8	20.3	20.1	20.4	19.9/平均
月合計(人)	502	527	495	548	523	530	3,125

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度実績	19.67	19.62	21.04	21.38	19.4	19.7	19.33/平均
月合計(人)	531	510	547	513	466	512	5,984
令和7年度目標	20.6	20.6	20.8	19.8	19.8	20.5	20.1/平均
月合計(人)	556	515	562	475	475	533	6,241

※令和6年度2月3月は予想である。

令和7年度収入計画 ※令和6年度2月3月は予想である。 (単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	3,821	4,142	3,809	4,311	4,336	3,996	24,415
令和7年度収入計画	4,364	4,591	4,335	4,832	4,592	4,666	27,380
令和6年度支出	3,841	3,390	4,782	4,028	3,534	3,445	23,020
令和7年度支出計画	3,956	3,492	4,925	4,149	3,640	3,548	23,710
令和6年度収支差額	-20	752	-973	283	802	551	1,395
令和7年度収支差額計画	408	1,099	-590	683	952	1,118	3,670
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	4,553	4,378	4,910	4,315	(3,827)	(4,025)	50,423
令和7年度収入計画	4,907	4,522	4,958	4,148	4,147	4,690	54,752
令和6年度支出	3,415	3,488	5,458	3,360	(4,009)	(4,258)	47,008
令和7年度支出計画	3,517	3,593	5,622	3,461	4,129	4,386	48,418
令和6年度収支差額	1,138	890	-548	955	(-182)	(-233)	3,415
令和7年度収支差額計画	1,390	929	-664	687	18	304	6,334
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							108%
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							103%
令和6年度と令和7年度計画の差額比率							185%

収入・支出・差額についての管理者意見

収入においては、月平均19.3名の目標を達成出来た。今年度は月平均20.1名を目標とし、利用人数増を図ると共に取得可能な加算については、積極的に取得し収入増に繋げていきたい。支出においては、修繕費が増える事を想定し、支出増が見込まれる為、引き続き水道光熱費等経費削減に取り組む。

特別養護老人ホームサンライフ西庄

令和7年度 事業計画書（案）

令和7年度ささゆり会経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人一人が改善実行！」に沿って、業務における課題を明確にし、5Sや改善活動、補助金を活用したICT機器の導入を行うことで業務の効率化に努め、介護負担の軽減や余暇活動、リハビリ等に活用していきたい。また、職員一人ひとりが考え行動できる人づくりを進めるにあたり、外国人職員・リーダー・個々の職員に対して責任を持たせ、情報共有できる体制を整えることで、より良いサービスが提供できる人材育成に努めたい。虐待予防の研修や体制の維持、病院との連携体制の維持継続、感染症対応の研修や訓練、災害も含めたBCPの更新及び研修や研修を行うことで安全で安心して過ごせる介護サービスの供給が継続できるように努めたい。また、家族との面会や連携及びリストランテ・ヴォーノによる地域貢献を継続し、全国人員配置基準(1:1.66)においても質の高いサービスが提供できるようにしたい。また、光熱水費の上昇により、ムダを省き対策を行い、支出を抑えて行ける取り組みを継続していきたい。

1. 人材育成について

外国人職員を含めすべての職員に居室担当を決め、家族への意向確認やケアプランの原案を日本人職員と一緒に作成することで、介護職としての意識と自覚を持たせるようにしたい。

2. 介護の質について

I. 余暇活動支援について

業務の効率化を図ることで、できた時間を活用し外出レクや四季を感じられるレクリエーションを企画・実施していきたい。

II. 居室担当・委員会担当の役割強化

また、担当職員が家族等との連携を取ることで説明能力の向上や家族との信頼関係の構築に努めたい。

III. 生産性向上の取り組み

眠りスキヤンの全室導入や新しい介護支援ソフトを活用したICT機器の導入により介護職員の負担軽減に努め、5S活動や業務改善活動を行うことで、業務のムリ・ムダ・ムラを洗い出し業務の効率化を考えて行く。ただし、効率化を求めすぎてサービスの質の低下に陥らないようにバランスを考えながら進めていきたい。

3. リスクマネジメント（介護事故・感染症・自然災害等）

I. 感染対策の強化

感染対応については、外部研修への参加、市及び保健所からの情報を収集しマニュアルの更新を行っていききたい。飛沫感染症による隔離対応に対する研修や食中毒における感染予防研修、ガウンテクニック指導等の研修を行うことで実践的な感染症対策を目指したい。また、嘱託医と連携し感染症に対する体制を整え新興感染症発生時にも対応できるようにしていきたい。

II. 自然災害 BCP

感染症や自然災害が発生をしても入居者に対して適切な介護が提供出来るように BCP の確認・変更及び備蓄品の管理を行う。また、年に 2 回災害及び感染症 BCP 訓練を実施する。

III. 事故について

ヒヤリハット報告の提出を勧め、事故報告書や映像を検証することで事故の再発予防に努めたい。ICT 機器を導入することで事故の早期発見や予防に繋がられるようにしたい。

4. 健全経営（収入・支出等）

営業研修に参加することで営業やマネジメント力を向上させ、病院や介護支援専門員と連携し、入所待機者の確保及び空室を減らし入所率 98% 以上を目指したい。支出面としては、物価上昇率が予測される中、消毒液や食材等よく使用する物を低価格の物に置き換えて仕入れるようにしたい。また、光熱費の費用負担が大きい為、毎月の使用量及び金額を確認し比較することで節約意識を持ち、節約を継続していきたい。介護支援ソフトの変更や眠りスキャンの全室導入等高額が費用がかかるため補助金申請を確実に言い、導入を進めていきたい。

I. 入院者数

自費による検査キットの活用で施設内療養を行い、入院者を減らし、入院後は家族や地域連携室と情報共有することで早期に退院できるように努めたい。また、入院中は空きベッド利用をショートで活用していきたい。

II. 地域貢献

地域貢献事業として運営している子ども食堂『リストランテ・ヴォーノ』は密集しないように月 1 回 20 名程度で実施継続していきたい。8 月は夏休みで人気がない為中止する。地域の方や学生ボランティアが参加できるよう調整していきたい。

Ⅲ.年間収入目標

※令和6年度2月3月は予想。※収入は介護報酬の収入を記載 (単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	14,191	14,613	13,104	14,944	14,170	13,835	84,859
令和7年度収入計画	13,907	14,363	13,907	14,363	14,363	13,907	84,810
令和6年度支出	11,671	9,377	15,520	11,088	10,454	9,499	67,611
令和7年度支出計画	12,474	10,166	16,904	12,053	10,564	10,359	72,521
令和6年度収支差額	2,520	5,236	-2,416	3,856	3,716	4,336	17,248
令和7年度収支差額計画	1,433	4,197	-2,934	2,310	3,799	3,548	12,289
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	15,339	13,961	14,424	14,389	13,467	13,914	167,770
令和7年度収入計画	14,363	13,907	14,363	14,363	12,994	14,363	169,168
令和6年度支出	10,778	10,072	16,175	9,836	9,552	10,735	134,762
令和7年度支出計画	10,945	10,042	16,891	10,654	10,184	11,594	142,030
令和6年度収支差額	4,561	3,889	-1,475	4,553	3,344	4,301	33,008
令和7年度収支差額計画	3,418	3,865	-1,812	3,708	2,810	2,769	27,138
令和6年度と令和7年度計画の収入比率				100.8%			
令和6年度と令和7年度計画の支出比率				105.9%			
令和6年度と令和7年度計画の差額比率				82.2%			
収入・支出・差額についての管理者意見							
<p>居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとの連携を図り入院空きベッドの活用で臨時ショートを受け入れ出来るように努めることで稼働率98%を目指したい。安定して人員を確保することで取得済みの加算を維持し、法令順守することで減算にならないように努めたい。支出については物価高騰による物品や食材の価格上昇、給与水準の上昇、ささゆり会で5年以上所属の職員が増える為保険料の上昇等を含めて、約720万円程の支出増が見込まれる。収支差額としては△587万円となる。洗剤の変更や食材費・高熱水費等の節約に取り組みながら健全な経営に努めたい。</p>							

5. ガバナンスについて (虐待・パワハラ・セクハラ・法令順守・就業規則等)

法人全体の虐待防止研修・ハラスメント研修を全職員が受け、虐待や不適切ケアに対する知識を深めたり、BPSD等で介助者に負担が大きい利用者に対する介助方法の改善や治療等を全職種で検討し対応することで、過度に負担がかからないような体制を構築し、虐待や不適切ケアが生じる事のない安心して過ごせる場の提供に努めたい。また、職員に対しては悩みを一人で抱え込まないように定期的に管理者や臨床心理士との面談を行い対応していく。

サンライフ西庄ショートステイ

令和7年度 事業計画書（案）

令和7年度ささゆり会経営スローガンである「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をもとに作業時間におけるムダの真因を見つけ業務の効率化を行いたい。効率化によりできた時間を活用し余暇活動やリハビリ等の利用者支援に使用したい。また、職員一人ひとりが考え行動できる人づくりを進める為、外国人職員・リーダー・個々の職員に対して責任を持たせ、情報共有できる体制を整えることで、より良いサービスが提供できる人材育成に努めたい。感染症対応の研修を定期的に行い、災害も含めたBCPの研修も行いたい。全国人員配置基準（1：1.66）に合わせた中でも質の高いサービスが提供できるようにしたい。また、物価上昇が続いている為、ムダを省き対策を行い、支出を抑えていける取り組みを継続する。

1. 人材育成について

外国人職員にも居室担当を決め、日本人職員と一緒にケアプランの原案を考え作成していく。また、家族様と連携が図れるように会話面でもサポートしたい。その後は居室担当として独り立ちさせ、日本人職員と同じ介護職としての意識と自覚を持たせ、行動できるようにしたい。

2. 介護の質について

I. 生産性向上について

眠りスキヤンの全室導入や介護ソフトの入れ替えを行うことで業務の効率化を行いたい。

また、5S活動や業務改善活動を続けることで質を確保しつつ間接業務の時間短縮や負担軽減を図り、短縮して余裕が出来た時間をリハビリや余暇活動等に使用し、利用者支援の質の向上を図りたい。

II. 余暇活動支援について

ユニットで毎日実施しているラジオ体操や月1回の行事等は継続して行っていきたい。

また、週に行うレクリエーションの回数を増やしていくことで利用者の日常生活が活性化出来るようにしていきたい。職員間でレクの内容を検討し、工夫することで活動量や参加率を上げ、充実させていきたい。

III. 情報共有について

ユニット会議やフロア会議を定期的を開催することでスタッフ間の情報共有を図り、チームとして業務が行えるようにしたい。また、申し送り内容や引継ぎ時間を決め、短時間で分かりやすく情報共有することで利用者の日々の状態変化に対応できるように努めたい。

3. リスクマネジメント（介護事故・感染症・自然災害等）

I. 感染症への体制強化

感染対応について日々変化していく中で、外部研修への参加、市及び保健所からの情報を収

集しマニュアルの更新を行っていききたい。感染対応の研修やガウンテクニックについても全介護職員が適切に行えるように定期チェックや指導を継続していききたい。

II. BCP について

感染症や自然災害が発生した場合、入居者に対して適切な介護が提供出来るように BCP の確認・変更及び備蓄品の管理を行う。また、年に 2 回災害及び感染症 BCP 訓練を実施する。

4. 収入の確保と支出

現在算定している加算を継続して取得できるようにしていきたい。また、新しく取得できるものがあれば算定要件等を確認し、検討していききたい。

ロングショート待機者の確保については引き続き電話や FAX を居宅や病院等に入れることで空床を減らし、入所率 98%以上を目標に収入を確保したい。

支出面としては物価上昇率が 2%と予測され、パットや紙オムツ等の価格上昇も見込まれる。洗剤や食材等よく使用する物は価格の安い物を選定し仕入れるようにしたい。また、電気、ガス、水道代の費用負担が増加している為、毎月の使用量及び金額を確認し比較することで節約意識を持ち、節約を継続していききたい。

その他の支出として、介護ソフトの導入により 320 万円の支出が見込まれる。

年間収入目標

※令和 6 年度 2 月 3 月は予想。※収入は介護報酬の収入を記載 (単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 6 年度収入	4,086	3,990	4,260	3,986	3,440	4,159	23,921
令和 7 年度収入計画	4,030	4,163	4,030	4,163	4,163	4,030	24,579
令和 6 年度支出	3,586	2,784	4,566	2,700	3,116	2,853	19,605
令和 7 年度支出計画	3,657	2,871	4,760	2,996	3,340	2,979	20,603
令和 6 年度収支差額	500	1,206	-306	1,286	324	1,306	4,316
令和 7 年度収支差額計画	373	1,292	-730	1,167	823	1,051	3,976
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 6 年度収入	4,259	4,047	4,101	3,645	3,672	4,045	47,690
令和 7 年度収入計画	4,163	4,030	4,163	4,163	3,764	4,163	49,025
令和 6 年度支出	2,923	2,745	4,873	2,776	3,009	2,884	38,815
令和 7 年度支出計画	3,129	2,890	4,904	3,050	2,932	3,277	40,785
令和 6 年度収支差額	1,336	1,302	-772	869	663	1,161	8,875
令和 7 年度収支差額計画	1,034	1,140	-741	1,113	832	886	8,240
令和 6 年度と令和 7 年度計画の収入比率							102.7%
令和 6 年度と令和 7 年度計画の支出比率							105%
令和 6 年度と令和 7 年度計画の差額比率							92.8%

収入・支出・差額についての管理者意見

収入に関しては前年に比べ、利用者の介護度が重度化している為増加が見込まれる。加算については今算定しているものが引き続き取得できるようにし、他に算定できるものがあれば算定条件を確認し検討したい。

支出に関しては物価上昇や給与水準の上昇が見込まれる。また、介護ソフトの導入により約 320 万円の支出が見込まれる。その他の修繕費も増加が予想される為、節約意識を持ち、節約に取り組みたい。収支差額としては 63 万円程減少となる。

5. ガバナンスについて

法人全体の虐待防止の研修を受け、虐待や不適切ケアに対する知識を深め、BPSD により介助者に負担が大きい利用者に対する介助方法の改善を職員全員で話し合いを行い、家族へ日々の状態を報告し理解を得ながら対応したい。また、過度に負担がかからないような体制を構築し、虐待や不適切ケアが生じる事のないよう安心して過ごせる場の提供に努める。職員に対しては悩みを一人で抱え込まないようにお互いに声かけを行い相談できる環境づくりを行いたい。

その他、ハラスメント研修へ参加することでハラスメントに対する正しい理解や意識を浸透させていきたい。

グループホームサンライフ西庄

令和7年度 事業計画書 (案)

令和7年度ささゆり会経営スローガンである「全てを自分の問題として捉え一人ひとりが改善実行」をもとに、どの様な問題でも話し合えるチーム作りをし、入居者様の心の声を聴き、感じ、入居者様の歩んで来られた人生を大切に、「共に考え共に歩む」事業所を目指す。

1. 人材育成について

- I. 職員一人ひとりの介護力の向上と実力の同一レベル化を図ると共に、個々のスキルアップのため各々の資格の取得を目指す。
- II. 認知症ケアの向上に向けて、外部研修などで学び得た知識も内部研修を実施し全職員に周知、共有し認知症ケアの統一と向上に取り組む。
- III. 外国人職員、非常勤にかかわらず勤務できる勤務帯を増やし誰もがどの勤務帯でも入れる事を目指す。

2. 介護の質について

介護保険の基本でもある自立支援を念頭に、残存機能の維持を意識し生活リハビリを中心とした介護支援を職員全員で行い、更に自己選択、自己決定の出来る機会や場面も増やしていく。

3. リスクマネジメント

- I. 手術、入院に繋がるような転倒事故等の発生を未然に防ぐため、身体状態、精神状態に留意しヒヤリハットに挙がる情報を共有し、次に活かす分析と取り組みを行う。
- II. 事業所、職員、家族様がともに理解と協力をし合えるように家族様と信頼関係を深める。
- III. 感染症や自然災害の研修や訓練を行い必要に応じてBCPの見直しを行って行く。ガウンテクニックについては着脱の仕方を忘れないよう、これまで通り月2回のペースで全職員が看護師のチェックを受けていつでも対応できるように備える。

4. 健全経営（収入の確保と支出）

令和6年度に引き続き今年度も満床状態を継続出来るように、入院に繋がるような転倒事故や、急病などによる入院をなるべく無くし空床状態となるようなことを、日々の健康管理や小さな異変に気を付けて最小限にする。また、空床が出てもすぐに入居案内ができるように、入居待機者とも定期的な連絡を取り待機状態の把握に努め、年間平均

稼働率 98%以上を目指す。支出では今年も賃上げや物価上昇もあり大変だが、出来る節約と人員配置を考える事と、修理等の大きな出費が発生しないよう備品も大切に扱っていく。

年間収入目標

※令和7年度2月3月は予想である。※収入は介護報酬の収入を記載 (単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	7,726	8,046	7,810	8,145	8,063	7,935	47,726
令和7年度収入計画	7,697	8,008	7,674	8,003	7,958	7,794	47,134
令和6年度支出	7,123	5,536	8,692	6,045	5,842	5,728	38,968
令和7年度支出計画	6,729	5,752	8,651	6,018	6,110	5,939	39,199
令和6年度収支差額	603	2,510	-882	2,100	2,221	2,207	8,758
令和7年度収支差額計画	968	2,256	-977	1,985	1,848	1,855	7,935
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	8,187	7,920	8,096	8,216	7,255	8,076	95,476
令和7年度収入計画	7,951	7,751	7,936	8,042	7,199	8,020	94,037
令和6年度支出	6,387	5,820	9,350	6,197	6,168	5,832	78,722
令和7年度支出計画	6,305	5,747	8,838	6,119	5,839	5,836	77,883
令和6年度収支差額	1,800	2,100	-1,254	2,019	1,087	2,244	16,754
令和7年度収支差額計画	1,646	2,004	-902	1,923	1,360	2,184	16,154
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							98.4%
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							98%
令和6年度と令和7年度計画の差額比率							96.4%
収入・支出・差額についての管理者意見							
令和7年度も昨年度に引き続き満床状態を維持し稼働率98%以上をキープしたい。支出については、令和6年度に2名の常勤職員の退職があったが賃金の引き上げと外国人職員1名の入職があるため人件費の大きな削減見込みはできない。物価高騰で厳しい状況だが、無駄な消費をなくして節約を特養、ショートと共に協力して取り組んでいきたい。							

5. ガバナンスについて

昨年度からの法人での虐待防止研修、リスクマネジメント研修、アンガーマネジメント研修で得た教訓や知識を活かし、虐待に繋がる不適切ケアについても敏感になれるように、グループホーム内での研修で更に認識を深めて行く。また、ひとりで問題を抱え込むことのないように。常勤、非常勤の役割は違えども区別せずに協力し仲間として、話しやすく共有できる環境作りをする。

特別養護老人ホームサンライフ西庄 医務

令和7年度 事業計画書（案）

今後、中重度の高齢者が増加する事が見込まれ、多様化する入居者様のニーズに応えるために安定したサービスを提供していきたい。そのために、医療的な対応の強化と医療・介護の連携が必要となってくる。安全・安楽に過ごせるよう入居者様の体調管理や日々の観察を行い、異常の早期発見に努めていきたい

1. 感染対策の強化

集団感染の経験を踏まえ、3か月ごとにPPE着脱方法の研修を継続し、全職員が習得できるまで、感染症に対する知識や行動力が身につくように繰り返し行う必要がある。また、入居者様の感染兆候時には感染対策・検査等を速やかに行い、嘱託医と連携をとり感染拡大防止に努めていきたい

2. 看取りへの対応の充実

昨年度12名（うち3名はショート）の方を看取った。入居者様が最期までその人らしい生活を迎えられるよう、入所時より意向を確認し看取り期になると意向が反映できるように多職種と連携をとり援助していきたい。

看取り期になると家族様の気持ちも揺れ動くため、状態変化があった場合は細目に連絡をし、家族様の精神面も支えながら援助していきたい。今後も看取りケアが充実するように、デスカンファレンスを行いよりよい看取りができるようにしていきたい。

3. 重症化防止への取り組み

高齢者は体の不調を訴えることが難しいため、気づいた時には重症化していることがある。入居者様と接する機会が多い介護職員との情報を共有し嘱託医と連携会議をすることで、施設で出来る対応へと繋げ、重症化しないように努めたい。

加齢による身体機能低下、認知症の悪化などの影響により誤嚥や褥瘡のリスクが高くなっている。昨年度褥瘡7名であった。引き続きポジショニング、適切な福祉用具の活用やスキンケア・栄養等多職種と連携を密にしながら褥瘡予防へと繋げていきたい

4. 日常生活機能訓練の強化

身体機能の維持や低下した生活機能の向上を目指していくために、日々の生活リハに加え、多職種と連携しながら一人一人にあった機能訓練を計画実施しADLの低下を防止する

5. 職員の健康管理への取り組み

全職員が健康診断や予防接種が適切に受けることができるようサポートする。年1回のストレスチェックの実施や昨年度より臨床心理士による面談の実施等により職員の内面にも配慮している。職員が自身の健康について意識が高められるよう働きかけ、職員が体調不良を言える環境作りやコミュニケーションを図っていきたい

特別養護老人ホームサンライフ西庄(厨房)

令和7年度 事業計画書(案)

1. 人材の定着・育成

昨年度の事業計画で、人員を充実させたいと各個人の能力を高めていくことを挙げていたが、新規の職員が続かず人員の定着はうまくいかなかった。今年度は引き続き、人員を充実させたいと人材の定着、育成に努めていきたい。

個々の仕事の負担を軽減させるためにも個人のレベルアップをはかり、仕事の幅を広げ効率よく進めていけるよう能力の向上を図る。

2. 献立の充実

季節ごとの行事食に力を入れ旬の食材を取り入れた献立を提供し、季節を感じられる食事にするのを心掛ける。嗜好調査やミールラウンドを通してメニューの充実を図り、1日の楽しみとなる食事を提供し、残食率の低下を図る。

食材費に関して、在庫食材を把握し管理することで、適正な仕入れ量の確保に努める。今年度も値上げされる食品が多数予想されるので、各業者に随時相見積もりを取り、食材費をできる限り維持できるようにする。

3. 衛生管理

異物混入に関する報告は無かった。今年度も引き続き異物混入ゼロを維持する。また、国内で発生した食中毒の情報を収集しそれを共有することで衛生管理に対する意識の向上を図り、各自が危機感を持つよう働きかけを行う。

4. 栄養ケアマネジメントの充実

ミールラウンドやモニタリングを通して状態把握に努め、介護士や看護師と連携を図り栄養補助食品等の使用を検討することで低栄養、褥瘡のある高リスク入居者の栄養の改善に努めたい。

5. 食事形態

今年度も普通食維持を目標とする。令和6年2月24日時点で普通食は12名(29名中)である。全ての食形態アップが難しくても、多職種によるミールラウンドを行い、食べられるものだけでも形態をアップする対応を行っていく。

6. 子供食堂の充実

昨年度は、おかわりする参加者も多数見られており大変好評であった。今年度は行事に合わせてハンバーグの形を変えるなど、季節の感じられるメニューにしていきたい。経費抑えながら、参加者の満足度向上に努めていきたい。

小規模多機能ホームサンライフ岡田

令和7年度 事業計画書（案）

今年度も「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行」というスローガンに基づき、問題の原因を制度や、設備、他者などの外部に求めるのではなく、自身の問題として捉えられるよう職員の意識改革を行っていく。

利用者様が住み慣れた自宅や地域での生活が継続でき、主介護者の介護負担が軽減できるよう、通い・宿泊・訪問を柔軟に組み合わせたサービスを提供していく。また、職員が働きやすい職場環境を作るため、パワハラ・セクハラ等、ハラスメントについての研修を受け、職員満足度の高い施設を目指していく。

1. 個人に応じた利用計画作成

利用者様が在宅での生活が継続できるよう、個々の特性に応じた小規模多機能型居宅介護計画を作成し、支援の提供を行う。施設サービスだけではなく、インフォーマルサービスを含めた計画の作成を行い、家族様の協力も得ながら、利用者様に必要な、通い、宿泊、訪問サービスを提供していく。また、働きながら介護をしている家族様の支援が出来るようなサービス提供を提案していく。

2. 人材育成

通い・宿泊・訪問とサービス提供内容が幅広く、柔軟な対応が求められる機会も多いため、施設内部で研修を行い、自分たちが知りたい知識や技術を習得していく。サービス提供体制強化加算を取得するにあたり、小規模多機能では事業所の全従業員に対し、従業員ごとに研修計画を作成し研修を実施する必要があるため、個人ごとに興味がある研修を選択し研修予定を立て、研修を実施していく。研修は引き続きeラーニングを使用し行う。外部の研修に参加できる機会が作れていない為、Zoomなどのオンライン開催されている研修を活用し、職員が研修に参加できるよう計画していきたい。またBCPの研修や、訓練を行い、緊急時自分たちがどのように動かなければならないのかの確認を行っていく。

3. 身体拘束・虐待防止対策の強化

法人で行う虐待防止研修やハラスメント対策研修に参加し、定期的に勉強する機会を設ける。また事業所で現在行っている身体拘束・虐待防止委員会でも研修や事例の検討などを行い、職員の知識の向上や意識改革を行っていく。虐待等に関する意識改革を行うことで、虐待等が起らない健全な施設を目指していく。

4. 事故の防止

事故を起こしやすい利用者様は決まってきたので、しっかり再発防止策を検討し、事故防止につなげていく。

5. 地域関係の強化

感染症の予防という観点から、地域の方を招いた行事や、地域に出向いて行事に参加するという事が出来ていなかった。利用者様と地域とのつながりを維持し、今までの暮らしが継続できるよう、地域との関りに力を入れ、地域の方から信頼されるような施設を目指す。

6. 感染症予防

感染症対策として、うがい・手洗い・更衣・マスクの着用、消毒を継続して行っていく。送迎時の体温測定や、毎日 10 時の体温測定を行ない、異常の早期発見に繋げていく。また、発熱症状のある方などは、家族様、看護師、主治医と相談しながら早期の対応を行っていく。感染症発生時の訓練を定期的に行い、緊急時にどのように動けばいいのかの確認を行う。

7. 業務効率化

R7 年 1 月より新しく導入した介護ソフト・ケアカルテを使用し始めた。記録用紙の削減をはじめ、訪問先での介護記録の入力、送迎合間の記録の音声入力などが可能になり、記録にかかる時間の短縮につながっている。今年度も定期的に使い方を職員で話し合い、効率よく業務が行えるようにしていく。

8. 収入・利用者様の確保

今年度は利用登録者 25 名を目標とし、営業活動を行い利用者様の獲得に努めていく。また、利用者様の状態に応じた介護度が出ているか定期的に確認を行い、必要であれば区分変更を家族様に提案していく。まだまだ小規模多機能サービスを月額制で使い放題と認識しているケアマネジャーや家族様も多い。1日に通いに来れる人数や、宿泊できる人数などが決まっていること、職員の数には限りがあることなどを営業時や契約時にきちんと説明し、小規模多機能サービスをただしく利用して頂けるよう、引き続き働きかけていく。自立支援に繋がる適切な介護量を見極め、必要な方に必要な量のサービス提供を行う。支出に関しては今年度も光熱水費や食材費の高騰により、増加が予想される。光熱水費に関しては職場全体で節約に取り組み、使用量の減少を目指していく。食材も安く仕入れが出来る業者を検討していく。

R7 年度収支計画

※令和 6 年度 2 月 3 月は予想である。収入は介護報酬の収入を記載。 単位（千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 6 年度収入	5,745	5,755	5,745	5,755	5,755	5,745	34,500
令和 7 年度収入計画	5,468	5,568	5,758	5,768	5,768	5,758	340,88
令和 6 年度支出	5,490	5,090	7,890	5,990	5,090	5,090	34,640
令和 7 年度支出計画	5,100	5,100	8,100	5,600	5,100	5,100	34,100
令和 6 年度収支差額	255	665	-2,145	-235	665	655	-140
令和 7 年度収支差額計画	368	468	-2,342	168	668	658	-12
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和 6 年度収入	5,755	5,745	5,755	5,600	5,400	5,755	68,510
令和 7 年度収入計画	5,768	5,758	5,768	5,768	5,708	5,768	68,626
令和 6 年度支出	5,290	5,090	7,890	5,090	4,890	5,090	67,980
令和 7 年度支出計画	5,100	5,100	8,100	5,100	4,900	5,100	67,500
令和 6 年度収支差額	465	655	-2,135	510	510	665	530
令和 7 年度収支差額計画	668	658	-2332	668	808	668	1,126
令和 6 年度と令和 7 年度計画の収入比率				100.1%			
令和 6 年度と令和 7 年度計画の支出比率				99.2%			
令和 6 年度と令和 7 年度計画の差額比率				212%			
<p>収入・支出・差額についての管理者意見</p> <p>今年度内に総合マネジメント加算を現状のⅡからⅠが取得できるよう調整し、加算増収を目指す。要介護度の高い方の入院や退所が続き、平均介護度が下がってしまっているため、介護度の高い新規利用者様と契約し、収入の増加を図る。支出に関しては光熱水費の節約を継続して行っていくとともに、退職予定の正社員の代わりに非常勤職員を採用することで、人件費の削減をおこなっていく。</p>							

デイサービスサンライフ岡田

令和7年度 事業計画書（案）

「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をスローガンに、職員研修を行い、介護の質の向上を目指し、また行きたいと思えるデイサービスにする。今年度は営業研修やマーケティング研修に参加し、営業活動に力を入れ、新規利用者の更なる獲得を図っていく。

1. サービスの質の向上

職員の介護技術や考え方にバラツキがあり、利用者対応に差がみられている。職員研修や業務の振り返りを行うことで、自身の対応が良かったのか、今後に向けて改善点はないのか気づくきっかけとし、介護技術の向上を目指していきたい。また、デイサービスの特色として、買物外出を隔週で実施、体操を毎日行ってきた。今年度は新しいレクリエーションや個別の活動を取り入れ、利用者様が飽きない企画を考えていく。

2. 事故の防止について

過去の事故内容を職員間で周知し、今後の対応について話し合い、対策を徹底していくことで再発防止に努める。また、事故に繋がりそうな事例をヒヤリハット報告書に記入し、職員間で情報共有する。そして、令和7年2月より導入したケアカルテを使用し業務の効率化を図る事で、職員が利用者様と関わり、見守りできる時間を増やし、事故を未然に防いでいく。

3. 虐待防止対策について

虐待防止対策として、法人で行う虐待防止研修に参加し、定期的に勉強する機会を設ける。また事業所全体で虐待等に関する意識改革を行うことで、虐待等を絶対に起こさない健全な事業所を目指していく。また、身体拘束委員会、虐待防止委員会を設置し、3か月に1回以上、加えて必要に応じ、実施する。

4. 収入と利用者数の確保について

前年度より理学療法士が勤務し、利用者様のリハビリに力を入れることができ、新たなデイサービスの特色とすることができた。介護福祉士の割合が満たせず、令和7年度もサービス提供体制強化加算が算定できない為、職員の資格取得を促し、次年度は加算を算定できるようにしていきたい。引き続き営業活動において、デイサービスの特色を伝え、サービスの見直しや職員研修による利用者満足度を高めることで、新規利用者の獲得を目指していきたい。

令和7年度目標利用人数 ※令和6年度2月3月は予想で入れています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度実績	19.46	17.89	19.12	20.55	21.59	24.08	20.45/月平均
月合計(人)	506	483	478	445	583	602	3,097
令和7年度目標	24.5	25.0	25.5	25.5	25.5	25.5	25.25/月平均
月合計(人)	637	675	637.5	688.5	663	663	3,964
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度実績	24.07	25.08	25.77	24.54	25.5	25.0	25.02/月平均
月合計(人)	650	652	670	589	615	650	6,923
令和7年度目標	25.5	26.0	26.0	26.5	26.5	26.5	25.58/月平均
月合計(人)	688.5	650	688.5	624	624	689	7,928

令和7年度収支計画 ※令和6年度2月3月は予想で入れています。 (単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	4,196	4,021	3,874	4,630	4,715	5,165	26,601
令和7年度収入計画	5,086	5,423	5,091	5,543	5,317	5,317	31,777
令和6年度支出	4,219	4,013	5,854	5,447	4,603	5,260	29,396
令和7年度支出計画	4,550	4,550	6,020	4,550	4,550	4,550	28,770
令和6年度収支差額	-23	8	-1,980	-817	112	-95	-2,795
令和7年度収支差額計画	536	873	-929	993	767	767	3,007
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	5,320	5,697	5,748	5,048	4,800	5,400	58,614
令和7年度収入計画	5,542	5,202	5,543	4,972	4,972	5,794	63,802
令和6年度支出	4,910	7,269	6,212	4,808	4,500	4,500	61,595
令和7年度支出計画	4,760	4,550	5,850	4,740	4,550	4,550	57,770
令和6年度収支差額	410	-1,572	-464	240	300	900	-1,409
令和7年度収支差額計画	782	652	-307	232	422	1,244	6,032
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							109%
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							94%
令和6年度と令和7年度計画の差額比率							%

収入・支出・差額についての管理者意見

収入について、令和6年度の上半期は利用者様の入院や入所による中止者が多く、新規利用者の獲得も少なかった。加えて、介護福祉士の割合が満たせず、サービス提供体制加算が算定できなくなった為、収入が大幅に減少した。令和7年度は、新規利用者獲得を目指し営業活動を行っていく。支出については、令和6年度にケアカルテ導入費が入ったため、支出増となっている。令和7年度も人件費の増加や物価高の影響で増加が予想される為、支出増としている。

差額については、利用人数の増加に伴う収入増を見込み、前年度よりもプラスを予想している。

サンライフ岡田居宅介護支援事業所

令和7年度 事業計画書（案）

年間目標

前年度の介護保険法改正により、常勤1名あたりの担当件数が増え、45件未満の担当が可能になった。可能な限り新規依頼を受け入れ、利用者の希望を尊重した質の高いケアプランが提供できるよう定期的に利用者の状況把握・評価を行い、利用者の生活課題を抽出し適切なプランに修正する事で、利用者が希望する生活が維持できるようにするという「個人目標」

2名の職員が協力し適切な利用者の振り分け、業務の均等化のため、業務負担のバランスを考え、定期的にお互いの業務状況を確認しながら働きやすい職場環境作りを行い、ICTを活用し事務作業の短縮など、工夫し事業所運営の安定を目指しながら収入増へ繋げていくという「事業所目標」の2つを年間目標とし実行できるように努める。

1. サービスの質の向上

虐待やハラスメントなどの困難なケースや問題点がでてきた時等、事業所内で意見交換を行い、各地域包括支援センターと連携を取り、情報共有を行うことで支援がスムーズに行えるよう努める。研修会にも積極的に参加するよう心がけ、他事業所との交流の機会を持ち、業務に必要な情報収集を行う。

2. 委託業務について

・介護予防支援

地域包括支援センターや関係機関と連携強化し、要支援の方の自立した生活を支える事ができるように居宅介護支援事業所として可能な限り受け入れ、健康寿命を延ばす為の支援を行う。

・在宅認定調査

毎月担当人数の確認と業務量に応じ、本来の業務に支障が出ない様に、在宅認定調査を今後も継続していく。

3. BCP（事業継続計画）

定期的にマニュアルの見直しを行い、緊急時に優先すべき業務をしっかりと理解し、速やかに対応できる様に、研修と訓練に参加する。

4. 業務効率化

ICTを活用し、タブレット・スマートホン・音声入力を活用し記録業務時間を短縮し記録作業を効率よく行う。

5. 年間収支の予測

※収入は介護報酬の収入を記載

※令和7度2月3月は予想である。

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	935	1,013	1,024	1,047	1,022	1,070	6,111
令和7年度収入計画	1,042	1,042	1,042	1,042	1,042	1,042	6,252
令和6年度支出	936	899	1,814	1,528	866	886	6,929
令和7年度支出計画	904	904	1600	904	904	904	6,120
令和6年度収支差額	-1	114	-790	-481	156	184	-818
令和7年度収支差額計画	138	138	-558	138	138	138	132
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	1,083	1,049	1,032	1,034	1,030	1,030	12,369
令和7年度収入計画	1,042	1,042	1,042	1,042	1,042	1,042	12,504
令和6年度支出	916	2,453	1,959	921	904	904	14,986
令和7年度支出計画	904	904	1600	904	904	904	12,240
令和6年度収支差額	167	-1404	-927	113	126	126	-2617
令和7年度収支差額計画	138	138	-558	138	138	138	264
令和6年度と令和7年度計画の収入比率				101%			
令和6年度と令和7年度計画の支出比率				81%			
令和6年度と令和7年度計画の差額比率				-%			
<p>収入・支出・差額についての管理者意見</p> <p>前年度は収入も増えているが、ケアカルテ導入で支出も大幅に増えてしまい収入はマイナスとなっている。</p>							

特別養護老人ホームサンライフ魚崎

令和7年度 事業計画書（案）

今年度も「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」を経営スローガンに掲げ、入居者様の健康管理、個々の身体に応じたシーティングやポジショニングを行い、個別ケアを実践していく。前年度のチーム課題であった、抱える介助を改善するため、ノーリフトケアを推進し、移乗用リフトの導入、スライディングボードの活用を積極的に行う。入居者様の余暇活動を充実させるため、音楽療法、施設行事、他部署との合同日帰り旅行等を企画する。家族様と入居者様との交流機会である面会、外出、外泊等も促していきたい。介護記録ソフトの変更、ICT機器の導入、インターネットの環境整備を行い、間接的業務の生産性向上に取り組む。物価高騰において、光熱水費の節約や介護物品の適切な使用（排泄回数の見直し等）、職員一人ひとりがコスト削減に対しての意識を高める。

1. 入居者様の健康管理を一人ひとりが考え実行する

- I. 拘縮・褥瘡を予防するため、職員一人ひとりが入居者様の身体の特徴を理解し、シーティングやポジショニングを実践していく。入居者様個々にシーティング及びポジショニングの写真を撮り、安楽な姿勢の確認、必要な介護用品を職員一人ひとりが把握する。必要な介護用品を追加購入する。（体位固定クッションやエアーマット等）
- II. 入居者様と職員の負担軽減のため、移乗介助時において移乗用リフトの導入を検討する。移乗用リフトの使用において、移乗に費やす時間が課題となるが、時間を費やしても、負担が掛からない介助方法を職員が考える機会を作っていきたい。併用して、スライディングボードを使用しながら、抱えない介護を目標に実践する。
- III. コロナ禍前の面会方法で入居者様と家族様が交流できる機会を設けるため、居室や食堂で面会できる環境を整備する。居室及び共用部の美化を図るため、整理整頓（不要な物の撤去、居室棚の収納整理、壁紙や居室カーテンの修繕等）の意識を高める。入居者様と一緒に掲示できる作品を作成し、職員が掲示物に工夫を行いながら、入居者様や家族様が快適で楽しく、清潔なイメージが持てる、居住空間を創設する。
- IV. 入居者様の余暇活動を充実させるため、音楽療法、施設行事、他部署との合同日帰り旅行を企画し、季節を感じて頂きながら、生活の中で楽しみを持って頂く。家族様より、外出や外泊等の希望が多いため、希望に応じて対応していく。

2. 感染症及び災害時における業務継続について

- I. スタンダードプリコーションを徹底し、手洗いや嗽を確実に出来るよう、午前午後の申し送り時に発信する。入居者様の発熱に対して、一日に2回の検温測定を継続して行い、発熱者が出た場合は速やかに感染症の初動対応を行う。
- II. 年に2回のBCP研修や訓練を通じて、感染症や災害時における、入居者様及び職員の安否確認、優先すべき業務内容、職員参集方法等を確認し、感染症や災害に備える。

3. 経営の安定化への取り組み

- I. 年間稼働率98.5%以上への取り組みとして、施設見学の問い合わせがあれば、直ぐに返答し、施設見学に繋いでいく。ショートステイのロング利用の意向も合わせて確認し、状況に応じてロングショートに繋げ、特養入所を待機して頂く。ロングショート利用者を10名程度確保し、ショートステイの稼働率を含めてベッドコントロールを行う。
- II. 入院した入居者様の状態確認を速やかに行い、早期に退院ができるよう病院と連携する。看取り介護が開始された入居者様の状態確認を行いながら、次期入所者として決定している方への連絡を行い、入所日が近日中であることを伝え、退所後すぐに入所契約に繋げる。

稼働率%

令和6年度（実績）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	96.6	98.6	99	100	98.4	98.4	98	98.2	98.4	98.1	96.7	98.5	98.2
令和7年度（目標）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5

令和7年度1月～3月は見込み

4. その他

- I. 介護記録ソフトの変更（ほのぼのからケアカルテへ変更）、インカム・スマートフォンの導入、施設内のインターネット環境の整備等を進めていく。介護記録の音声入力が行えることで間接業務の生産性向上を図る。
- II. 物価高騰により、支出が増えることが予想されるが、光熱費の節約（節電、節水）、介護物品の使用頻度の見直しを適宜行い、無駄な支出を防ぐ。
- III. 部署研修や外部研修を通じて、研修計画を作成し、スケジュールに沿って研修を実施していく。専門的な知識、技術の向上を図る。

4月	5月	6月	7月	8月	9月
虐待研修 接遇研修 【DS】	看取り介護研修 【SS】 コンプライアンス ハラスメント研修 【全体会議】	身体拘束研修 【CH】	BCP 感染症 研修及び訓練 【医務】	事故研修 (転倒・転落) 【特養】	認知症研修 精神的ケア研修 【GH】 防災研修及び訓練 【CH】
10月	11月	12月	1月	2月	3月
BCP防災 研修及び訓練 【衛生管理者 安全管理者】	褥瘡研修 【医務】 プライバシー研修 【全体会議】	虐待研修 【DS】 身体拘束研修 【CH】	事故研修 【CH】	介護予防研修 【地域包括】 生産性向上研修 【安全管理者】	衛生管理研修 (食中毒感染症) 【厨房】

【】内は担当者又は担当部署

5. 令和7年度収支計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入実績	12,139	12,831	12,402	13,184	13,138	12,337	76,031
令和7年度収入計画	12,334	13,013	12,384	13,083	13,133	12,431	76,378
令和6年度支出実績	9,429	8,702	15,037	9,713	9,375	10,213	62,469
令和7年度支出計画	9,820	9,063	15,660	10,116	9,764	10,636	65,059
令和6年度収支差額	2,710	4,129	-2,635	3,471	3,763	2,124	13,562
令和7年度収支差額計画	2,514	3,950	-3,276	2,967	3,369	1,795	11,319
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計
令和6年度収入実績	12,710	12,367	12,811	12,833	11,430	12,800	150,982
令和7年度収入計画	12,832	12,431	12,830	12,602	11,576	12,601	151,250
令和6年度支出実績	10,961	9,563	13,990	9,700	9,700	9,700	126,083
令和7年度支出計画	11,415	9,960	14,570	10,102	10,102	10,102	131,310
令和6年度収支差額	1,749	2,804	-1,179	3,133	1,730	3,100	24,899
令和7年度収支差額計画	1,417	2,471	-1,740	2,500	1,474	2,499	19,940
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							100.18%
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							104.15%
令和6年度と令和7年度計画の収支差額比率							80.08%

※令和6年度1月～3月は見込み

※基幹福祉避難所の補助金を除く

収入・支出・収支差額についての管理者意見

令和7年度の支出において、ダムウエーターの交換や介護用品の購入等で前年度よりも支出が増える。支出が増えるにあたり、収入が減ることがないように、令和7年度は目標数値（稼働率 98.5%）を設定し、収入は微増の予定であるが、稼働率（前年度 98.2%）を上昇させていきたい。介護記録ソフトの交換、インカム・スマートフォンの導入、インターネット環境の整備等、生産性向上に係る支出は補助金を活用しながら進めていきたい。

以上

魚崎高齢者介護支援センター（短期入所生活介護）

令和7年度 事業計画書(案)

令和7年度経営スローガン「全てを自分の問題と捉え、一人ひとりが改善実行！」に基づき、職員一人ひとりが利用者様の立場になって考えていきます。

ご利用者様家族の在宅生活を維持して頂くために、安心・安全なケアを提供、改善策を出し合い、各職員が役割と責任感持ち、業務に取り組みます。

また、利用者様やご家族様からの声をケアに反映できるよう、問題や課題の情報共有だけではなく、成功例の共有や、自身の考えを発言できる場を設けます。又、「気づき」の力を付け他者と共有して考え行動に移せるよう、職員一同で取り組んでいきます。

レクリエーション等の充実を図り、メリハリがあり、楽しく生活していただけることを目指します。

又、施設内部の共有だけではなく、利用者様に安心してご利用していただけるよう、ケアマネジャーや家族様との密な連絡・報告を行い、信頼して頂けるよう関係性を構築していきます。

また他部署との連携を強化し、施設全体の入居者様確保、スムーズにロングショートのご案内や転居が行えるように努めます。

1. 楽しく快適で安全な生活を提供

I. サンライフのショートステイの利用中「楽しかった・良かった」と感じ帰宅して頂けるよう、ご利用中の生活が楽しくなるような環境の提案。

(1) 朝のラジオ体操の他に、YouTube等やサイクルペダルを活用し、身体を動かす時間を作る。

(2) 日々のレクリエーションの充実やおやつレクや音楽療法など、利用者様の楽しみにつながるようなレクリエーションが行えるよう企画します。

II. ケアを行う時だけでなく、日頃から利用者様との日常会話を大切にし、利用者様の好みや、困りごとをみつけ、より良いケアに繋げていけるようにコミュニケーションを図る。また、各職員が積極的にケアについて「発信・相談・考える事ができる」チームを構築する。

III. 環境整備や整理整頓を行いスッキリとした環境を創造する。

(1) 日々の業務の中で短時間でも、環境整備を行う習慣をつける。整理整頓、使用後は定位置に必ず置き、不要なものは置かずすっきりとした環境を目指す

(2) 各清掃箇所を担当化し物品の管理の際は定位置を決め、物品を探す時間を減らし業務の効率化を図る。

使用しない物が置きっぱなしになっていないか、廊下やフロア、ベランダ等の整理整頓を定期的に行う。

IV. ケアを見直し、不適切ケアや虐待を防止する。

- (1) 虐待防止研修を全職員年 2 回行い、レポートの提出を行う。高齢者虐待における虐待定義（暴言、暴力、ネグレクト）、不適切ケア（スピーチロック、声掛けや同意のない一方的なケア）、等の知識や技術を習得し、職員個々がスキルアップできる取り組みを実施する。申し送り時等、動画(YouTube)を活用した動画での研修や話しあい等を行い、虐待防止に対して常に意識するようにする。
- (2) 日々の業務の見直しや困難事例等の話し合いを行うことで、職員間でケアの見直しを行う。

2. 安定した利用者確保

I. 送迎時を利用して家族様とのコミュニケーションを図り、「何かあった時のみの報告」ではなく、こちらでのご様子をお伝えするようにし、日頃から信頼して頂ける関係性の構築に努める。また、ご利用期間中のご様子で気になる事やご自宅でのお困り事はないか家族様にご連絡させて頂き、家族様が抱え込まないようにいつでもご相談頂けるよう、こちらから積極的にコミュニケーションを図るようにする。

利用者様の変化や、ご利用中の気付きに対し、その日のうちに担当ケアマネージャーへ連絡し、解決策やケアに対する提案をアプローチし、「サンライフのショートへ行くと本人の様子をしっかりと見てくれて、ケアの見直しを積極的に行ってもらえる。困った時にはまずサンライフに相談しよう」と思ってもらえるショートステイを目指す。

II. 引き続き安定した利用者数獲得の為、特養、ケアハウス等の待機者や他施設の入居を希望されている方々も含めた施設生活希望者を積極的に受け入れられるよう、情報収集を行う。又、施設入居された際の利用者数減少も見据え、ロングショート枠を毎月 10 名確保。ロングショート待機としても希望などがあれば柔軟に対応を行う。

I. 日中利用者数目標

単位：人

令和7年度目標利用人数 *令和6年度2月3月は見込み。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度実績	18.9	16.5	17.3	18.4	19.7	18.2	18.8/日平均
月合計(人)	567	512	520	571	611	546	3,446
令和7年度目標	18.3	18.8	18.8	18.2	18.5	18.5	18.5/日平均
月合計(人)	560	570	565	570	575	555	3,395
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度実績	17.2	18.8	18.6	18.9	18.9	18.0	18.2/日平均
月合計(人)	534	565	576	585	530	560	6,677
令和7年度目標	18.2	18.8	18.5	18.3	19.2	18.0	18.5/日平均
月合計(人)	565	565	575	570	540	560	6,770

II. 令和7年度収支計画

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入	6,939	5,631	8,465	7,245	7,547	7,296	43,125
令和7年度収入計画	7,000	7,000	7,150	7,150	7,150	7,150	42,600
令和6年度支出	7,651	5,171	10,307	5,301	5,524	8,630	42,586
令和7年度支出計画	6,700	5,500	10,200	6,000	6,000	6,800	41,200
令和6年度収支差額	-711	460	-1,842	1,943	2,023	-1,334	539
令和7年度収支差額計画	300	1,500	-3,050	1,150	1,150	350	1,400
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入	6,624	7,502	7,053	7,192	6,237	6,260	83,991
令和7年度収入計画	6,900	7,200	7,100	7,100	6,650	6,950	84,500
令和6年度支出	6,256	5,487	9,187	5,900	6,000	6,000	81,414
令和7年度支出計画	6,250	5,500	10,200	6,700	6,600	6,500	82,950
令和6年度収支差額	318	2,015	-2,134	1,292	237	260	2,577
令和7年度収支差額計画	700	1,700	400	400	50	450	5,100
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							100.6%増
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							101.9%増
令和6年度と令和7年度計画の差額比率							198%
収入・支出・差額についての管理者意見							
<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度は神戸市より日中の利用定員超過に関しての指導があり、スムーズにご利用をお受けする事ができなかった。令和7年度は柔軟にご予約をお受けし、ご利用者数の安定に努めたい。 ・エアコンやエアマット、車椅子など施設備品の老朽化が見られ修繕が必要。光熱水費や介護材料費等、物価高騰もあり支出が見込まれる。コスト削減や節約の意識をもち業務に取り組み、少しでも支出を抑えたい。 							

3. 人員構成力の強化

- I. 介護福祉士・介護支援専門員試験を受けられる職員については、常勤・非常勤にかかわらず積極的に受験できる様、部署全体でバックアップし、積極的な研修等の参加が行えるようシフト調整等を行う。
- II. 職員の資質向上を目指し、研修に参加できる様、研修案内等の情報収集を行い、積極的に参加。研修報告書を作成し、他の職員へ発信（研修）をする。
- III. 運転研修を行い、送迎業務の確認や送迎経験の少ないスタッフには対応を定着へと繋げていく。
- V. 映像を使った内部研修を行い、内部研修の充実を図る。喉詰りや救急搬送等緊急時や介護支援に役立つ技術・火災や災害等を想定した訓練などを学べる機会を増やします。

4. 介護資源を工夫して有効に使う。

- I. 電気・ガス・水道メリハリのある使用を意識して行える様、注意喚起する。コスト削減の意識を高める。
- II. 日中のパット類は基本的に小パットを使用。無駄に大きなパットを使用しないよう、そ

の方に合ったパットの使用方法を昼の申し送りの際に再検討を実施する。

- Ⅲ. 施設の備品の使用方法等を確認。乱雑な扱いにならないよう注意し、備品を丁寧に使用できるように意識づけを行う。また、大掃除の機会等を活用し、備品の点検を行い、故障前に異変に気づき、大きな修繕や修理とならない様、未然に防げる様に努める。

5. 災害や感染症対策に関わる体制整備

- I. BCP（事業継続計画）をもとに、感染症や災害が発生した場合でも、利用者様に必要なサービスが継続して提供できるよう、各職員が計画を十分理解できるよう、研修の実施、訓練（シミュレーション）を行う。
- II. 災害や感染症に備え、感染予防物品やその他物品を感染対応委員が、月に1回確認・点検を行う。

以上

特別養護老人ホームサンライフ魚崎・短期入所・通所 医務

令和7年度 事業計画書（案）

「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をスローガンとして、新たに管轄に加わったデイサービスの業務もスタッフ間の連携をしっかりと取り充実させていきたい。

1. 本館医務として

昨年末より特養・ショートに加えデイサービスも担当することとなり、それぞれのご利用者様の介護度の差や特性、ニーズの違い等をとらえながら、健康管理・維持・向上のための情報共有、対策を介護施設の医療チームとして構築していく。

2. 事故防止について

I. 配薬に関して、「ルーティンの定期薬チェックが常態化しないよう看護師間で声かけしあい緊張感を持つ」「確認作業中のスタッフへは声かけしない、タイミングを十分配慮するよう習慣づける」等を啓発し個々の意識を高める。

II. 足爪関連の事故防止対策としての計画的な爪切りチェックは途切れないよう継続して行う。

III. デイサービスの衛生物品、医療器類を整理し管理、ご利用者様の情報共有ツールを作成し活用する。

IV. 業務時間の中でその日の出勤者で、15分ほどの時間を設け、デイサービス・特養・ショートのカンファレンスを実施する。

V. 長らく行えていない熱傷・出血を伴う受傷・転倒時の応急処置を課題とし医務研修で伝達する。

VI. 繰り返される事象や時期的な事をテーマとして個々に自己研鑽出来るよう2か月に1課題のペースで学習する機会を作る。

VII. 申し送りや事故対策のカンファレンス等折に触れて、看護・介護他部署でチームで利用者様に携わっている事を意識づけられるよう繰り返し発信する。

3. 感染予防について

I. 有症者発生時にはこれまでの経験を評価し介護職と話し合いながら早期に終息できるような効率の良い対応策を柔軟に考えていく。

II. 受け持ちが多部署となるため職員の健康管理に気を配り体調の変化にはスタッフ間で敏感に反応し俊敏に対応する。

III. 研修・委員会で感染対応の手技・物品配置・BCPを踏まえた訓練を計画的に行う。

4 虐待防止について

I. ご利用者様の心に寄り添った看護を今後も一層推進するよう内部研修と年2回の研修参加・レポート提出を必須とし、個々の知識・理解力・対応力の向上を図る。

5 看取り介護・看護について

I. 要介護度の高い、重症既往の利用者が増えており、特養だけでなくショート、デイサービスでもご利用者本人の体調変化の受容・疾患の理解や主治医との連携が深められるよう相談員と共にご家族への働きかけを積極的に行い、意向をスタッフ間で共有する。

以上

魚崎高齢者介護支援センター（通所介護）

令和7年度 事業計画書（案）

経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」

今年度の、経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をベースに、相談員・リーダーは常に連携をとり、非常勤職員も一人ひとりが責任ある業務を持ち、リーダー・正職員を中心に非常勤職員も業務改善や「利用者様から選んで頂けるデイサービスになるには？」を一人ひとりが考え、問題等ないか声を掛け合い、助け合い、一人で抱え込まず何でも話し合える風通しの良いデイサービスを目指す。

デイサービス利用の需要自体が物価高上昇も伴い以前に比べると、かなり減少している。また、費用の負担から利用日数も減少している。新規利用者獲得を行いながらも、少数精鋭でも行き届いたケアと心遣いを意識し、温かく笑顔で利用者様・家族様に寄り添うデイサービスをチーム全体で作り上げる。

1. 「安心で、楽しく元気になれるデイ」を目指して

- I. 引き続き、YouTube やインターネットでの動画での体操を毎日午前・午後共に取り入れ、皆さんに行って頂く事で、ご自宅でも出来る体操を見つけ発信していく。それにより継続して体操が行えると同時に職員の業務負担軽減にもつなげる。
- II. 午前中は、利用者様お一人お一人に合ったレクリエーション（脳トレ、漢字、数独、塗り絵、工作、将棋、囲碁、読書等）を提案しご自分で選んで頂き取り組んで頂く。午後からは皆さんと行うレクリエーションを毎日担当職員が考え行って頂き、お一人で過ごされる空間も作りながら、皆さんがお好きなように過ごして頂ける環境を作る。
- III. ケアマネージャー、家族様との連携を相談員だけではなく、相談員不在の際でもリーダーも報告・連絡・相談が行えるように、日々の連絡に関しても相談員指示のもと対応する。その事により相談員不在でも敏速な対応・報告が行え、ケアマネージャーから信頼されるデイサービスを目指す。
体験利用やスポット利用や振り替え利用に関しても、基本的には受け入れ、すぐに対応できるようその日のうち、遅くても次の日には返答し「すぐに対応してくれるデイサービス」の印象を付ける。
- IV. 虐待防止研修、身体拘束研修を全職員が年2回受け、レポートを提出する。
高齢者虐待における虐待定義（暴言、暴力、ネグレクト）、不適切ケア（スピーチロック、声掛けや同意のない一方的なケア）、等の知識や技術を習得し、常に高齢

者虐待に対し「自分もしてしまう可能性がある」という事を忘れないよう、常に発信する。

2. 利用者様の安定的確保

- I. 毎月 1 日に、相談員が事業所を訪問し、利用者様の状況報告及び営業を実施。デイサービス利用者様の状況報告、おひさま通信等のチラシを多めに持参し、受け持ちでないケアマネージャーにも多く配布し新規利用につなげる。説明だけではなく、ショートや特養等の情報も把握し、会話等の中でケアマネージャーの相談に対応できるように入所系、SS と情報共有する。
- II. 7 時間以上 8 時間未満のご利用を中心に受け入れているが、最近では物価高上昇の影響もあってか、短時間の利用の需要がかなり増えており、その問い合わせも多くなっている。利用者様の状況により送迎場所や他の早帰りの利用者様との調整を行いながら、短時間での利用（4 時間以上～）も受け入れ、今後の新規利用者様獲得につなげる。
- III. 体験の方の報告等については、写真等も用い、分かりやすくどのように過ごしているのかを作成し報告する。家族様にも報告書をお渡しすると共に状況報告を行う。

3. 職員資質向上・資格取得

- I. 全職員が 1 ヶ月、毎週の内部研修に参加できるように、朝の業務調整をあらかじめ行う。内部研修受講職員は、他の職員へ受講内容を昼の申し送りの際に発信し、資料等を配布する。
- II. 少数精鋭で対応出来るデイサービスを目指し、常勤・非常勤問わず接遇や介護技術、利用者獲得に向けての外部研修があれば積極的に参加するようにする。
- III. 職員の無資格者に対して、必須となる認知症介護基礎研修への受講を行う。また、必要となる認知症研修等の研修へ常勤・非常勤関わらず参加できるように、勤務調整や業務調整を行う。

4. 綺麗な施設作り、設備機器の整備・点検、節約・節減への取り組み

- I. トイレの定期的なチェックを行い、利用者様に気持ちよく使用して頂く。
- II. レクリエーション等で使用する塗り絵のコピーは原則 3 枚とし、必要時に再度必要枚数のみコピーする。両面コピー等で枚数削減を意識する。
- III. こまめな電気の消灯、浴室シャワーをこまめに止める。トイレの便座を閉める。
- IV. 長年使用している加湿器を新調し、快適な空間を作り、感染予防にもつなげる。
- V. 施設備品や設備機器の整備に関し、修繕が必要の際は悪化してから報告するのではなく、日頃から点検や整備を行い、どのように使用すれば長く使用できるか相

話し、施設備品を大切に使用する意識を持つ。

5. BCP と感染防止対策の実施

I. 感染症や災害が発生した場合においても、継続して利用者に必要なサービスを提供する事業継続計画(BCP)の体制を作り、職員への研修を行い、1年に1回実践訓練を行う。

6. 利用者目標人数と目標収支差額

令和7年度目標人数 (単位：人) ※令和6年度2月、3月は見込み

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R6年度実績	22.5	22.7	23	23.5	22.8	23	22.9/日
月合計(人)	587	615	577	634	615	575	3,603
R7年度目標	23	23.3	23.6	24	24.6	25	23.9/日
月合計(人)	600	630	590	650	640	650	3,760
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度実績	22.8	22.3	21.2	20.7	20.5	21	22.1/日
月合計(人)	616	581	529	497	500	550	6,876
R7年度目標	24	24	23	22.9	23.7	23.8	23.7/日
月合計(人)	650	600	600	550	570	620	7,350

令和7年度目標収入 (単位：千円) ※令和6年度12月1月、2月、3月は見込み

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入実績	5,441	5,737	6,298	5,759	5,942	5,385	34,562
令和7年度収入計画	5,700	5,900	5,700	5,900	5,900	5,900	35,000
令和6年度支出実績	6,573	4,528	6,719	4,116	4,026	6,679	32,641
令和7年度支出計画	5,000	5,100	6,300	5,100	5,100	5,000	31,600
令和6年度収支差額	-1,132	1,209	-421	1,643	1,916	-1,294	1,921
令和7年度収支差額計画	700	800	-600	800	800	900	3,400

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入実績	5,547	5,534	4,860	4,500	4,500	4,860	64,363
令和7年度収入計画	5,900	5,800	5,800	5,900	5,700	5,900	70,000
令和6年度支出実績	4,088	3,849	6,776	5,100	5,100	5,100	62,654

令和7年度支出計画	5,100	5,000	6,500	5,100	5,000	5,100	63,400
令和6年度収支差額	1,459	1,685	-1,916	200	200	560	1,709
令和7年度収支差額計画	700	800	-600	800	800	900	3,400
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							108.7 %
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							101.2 %
令和6年度と令和7年度計画の収支差額比率							199 %
収入・支出・収支差額についての管理者意見							
令和6年、6月、9月の支出増は中央監視盤、エレベーターの新機種への更新に約460万円支出となったが、人件費の見直しを行うことで、赤字から黒字へ転換する事が出来た。令和7年度は新規利用者様獲得と同時に、少数精鋭でのデイサービスを目指し、引き続き黒字を目指す。							

以上

フレール魚崎中町（認知症対応型共同生活介護）

令和7年度 事業計画書（案）

「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をスローガンに、入居者様が安心安全に「その人らしい」生活が送れるよう、正職員だけではなく非常勤職員も知恵やアイデア出し合える場を作り、話し合いが活発になるよう取り組んでいく。また、全職員が入居者様の視点に立って考えられる介護を目指す。引き続き体操・廊下歩行・散歩（日光浴）・家事など自立支援を強化してやりがい作りや、楽しみ作りを行い、笑顔で充実した日々をお過ごしいただく。家族会、日帰り旅行を企画し、家族様との交流を多く図り、信頼関係を構築する。感染症や災害発生時に、職員一人ひとりが適切な行動がとれるよう、定期的に研修・訓練・物品の整備を行う。入居者様の安定的確保の為、他部署と情報交換を行い連携の強化に努める。

1. 入居者様の健康増進、笑顔を引き出す支援を一人ひとりが考え実行
 - I. 日課として、家事、廊下歩行、散歩、日光浴、体操、口腔体操を継続。
 - II. 一般家庭と近い形で、他入居者様と一緒に可能な限り炊事や掃除、洗濯などを行い、認知症の進行をおだやかにし、自立を目指す。
 - III. 個々の好きな事、個々に合った余暇活動、個々の「できること」や「得意なこと」を居室担当者が中心となり、実行していく。
 - ① 担当者が月に1回以上ケース会議を行う。
 - ② 気づきシートを作成し、毎週金曜日にフロア会議を行う。
 - IV. YouTubeを活用し職員の業務負担を軽減しつつ、入居者様に充実した時間を提供。
 - V. 音楽療法、華道教室、おやつ作り、桜の花見、買物、外食を楽しみ、10月頃に他部署との合同バス旅行を企画。
 - VI. 感染対応を行いながら、食堂や居室での面会を再開。清潔で快適な環境で家族様との交流を図れるよう、担当職員が居室、ケアステーション、共用部分の整理整頓、清掃を行う。決して人任せにせず、使用後はすぐに片付ける習慣をつける。
 - VII. コロナ前のように家族様と気軽に外食外出を楽しんでいただけるよう対応していく。誕生日や年末年始等に自宅へ一時帰宅していただけるよう検討したい。
2. 入居者様の安定的確保
 - I. 見学希望時、見学時は明るく笑顔で親切丁寧にご案内を行う。また、見学対応マニュアルに沿ってグループホームの現状や情報をわかりやすく説明。管理者以外もしっかりと説明できるように日頃より情報の共有を行っておく。
 - II. 他部署と連携を行う。入所判定会議や運営会議時にグループホームの状況を伝え、

入居希望者の情報を得る。ロングショートを活用し確保につなげる。

- III. 管理者、リーダーの現場業務以外の時間を確保し、他部署と合同の入所判定会議を1ヶ月に1回以上実施。会議で名前があがる方に関して、早めに健康診断をしていただき、スムーズに入居のご案内が出来るようにする。
- IV. ADL 低下時介護認定の変更申請を速やかに実施。介護が重度化し職員の負担過多とならないよう、適時転居検討を実施。
- V. 体調管理、事故防止に努め、極力入院とならないようサポートに努める。また、入院した入居者様の状態確認を早急に行い、出来るだけ早く退院となるよう、病院と連携する。

3. 業務改善・人材育成

- I. 認知症ケアのプロとして、接し方・対応の仕方、精神的ケアを全職員が認識し、常に安心感を与える対応を徹底する。
- II. 認知症研修と職員会議を(6月9月12月・3月)、正職員会議を(4月1月)に実施し、認識の強化・意欲の向上・ケアの統一・スキルアップを行う。
- III. 毎日の申し送り時と金曜日にフロア会議をおこない、個々のニーズに向き合い話し合い、皆で統一したケアを実施。
- IV. 週1回の内部研修に参加出来るよう、予め業務の調整を行う。研修受講職員は、他の職員へ受講内容を毎日の申し送り時に発信し、全員が把握できるようにする。
- V. 感染委員会を中心に、感染症発生時の研修を3か月に1回実施する。
- VI. BCP に基づき、感染症や災害が発生時も入居者様に必要なサービスが継続して提供出来るよう、体制作りや研修を実施。また、災害や感染症に備え、感染予防物品は感染委員会が確保、確認・点検を行い、他職員へ発信する。
- VII. 職員がハラスメントを理解・意識出来るよう研修を実施。働き易い職場を構築。
- VIII. 介護支援専門員・介護福祉士・実務者研修等資格取得を推進する。
- IX. 虐待防止研修、身体拘束研修を全職員が年に2回受け、レポートを提出。暴言・暴力・ネグレクトや不適切なケアとしてのスピーチロック・声掛けや同意のない一方的な介護、手荒い移動や移乗、手荒い排泄介助時の更衣作業など起こりえる虐待行為を防ぐために毎日の申し送り、ケース会議やフロア会議時に「なぜ虐待がおこるのか」意見交換を行う。

4. その他

- I. 光熱費・物価の高騰の為、コスト削減の意識を高める。正職員を中心に節約を常に啓発する。こまめな電気の消灯、必要な場所のみ電気をつけ無駄な出費を無くす。物品は絶対に必要な物だけ購入。稟議書に残額を記入し、節約意識を高める。
- II. 施設の備品、物品は丁寧に扱い、長く大切に使用する。管理者、リーダーが定期的に状態を確認し、全職員へ指導を行う。
- III. 加湿器を食堂の広さに合った物に更新し、感染予防につなげる。

5. 年間稼働率

(単位%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R6年度実績	100	100	99	100	100	97	98	100	94	89	(87)	(98)
R7年度目標	100	100	100	100	100	100	100	100	98	98	98	100

6. 令和7年度収支計画

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入実績	6,638	6,725	6,685	7,042	7,116	6,536	40,742
令和7年度収入計画	6,800	6,900	6,800	7,100	7,100	6,700	4,1400
令和6年度支出実績	4,975	4,798	8,479	5,487	5,255	5,172	34,166
令和7年度支出計画	5,000	4,900	8,500	5,500	5,300	5,200	34,400
令和6年度収支差額	1,663	1,927	-1,785	1,555	1,861	1,364	6,576
令和7年度収支差額計画	1,800	2,000	-1,700	1,600	1,800	1,500	7,000

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入実績	6,846	6,337	6,915	6,500	6,500	7,200	81,040
令和7年度収入計画	6,900	6,800	7,000	6,800	6,800	7,200	82,900
令和6年度支出実績	5,385	5,200	7,960	5,200	5,100	5,100	68,111
令和7年度支出計画	5,300	5,300	8,300	5,300	5,200	5,200	69,000
令和6年度収支差額	1,461	1,137	-1,045	1,300	1,400	2,100	12,929
令和7年度収支差額計画	1,600	1,500	-1,300	1,500	1,600	2,000	11,820
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							102.3%
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							101.3%
令和6年度と令和7年度計画の収支差額比率							91.4%

収入・支出・収支差額についての管理者意見

- ・入院を防ぎ空室削減を図る。(①毎日の運動と自立支援により下肢筋力の維持向上に努め、転倒事故を予防する。②感染症防止対策、体調管理に努める。③病気の早期発見)
- ・安定的な待機者確保の為、入所判定業務を定期的実施し、情報の発信と他部署との連携に努める。

以上

7. 年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
重点目標	接遇強化 散歩日光浴 強化	接遇強化 散歩日光浴 強化	接遇強化 食中毒予防	接遇強化 食中毒予防	事故防止 熱中症予防	事故防止 熱中症予防
研修・会議	感染症研修 正職員会議	認知症研修 身体の拘束 適正化会議	身体の拘束 適正化研修 食中毒研修 GH会議	感染症実技 研修 身体の拘束 適正化会議	認知症研修 事故防止研修 GH会議 第三者評価	感染症研修 身体の拘束 適正化会議 GH会議
待機者確保	入居判定会議	入居判定会議	入居判定会議	入居判定会議	入居判定会議	入居判定会議
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重点目標	接遇強化 散歩日光浴 強化	感染症予防 散歩日光浴 強化	感染症予防	感染症予防 接遇強化	事故防止	接遇強化
研修・会議	感染症研修 認知症研修 家族会	褥瘡予防研修 身体の拘束 適正化会議	身体の拘束 適正化研修 GH会議	感染症研修 身体の拘束 適正化会議 正職員会議	認知症研修 事故防止研修	身体の拘束 適正化会議 GH会議
待機者確保	入居判定会議	入居判定会議	入居判定会議	入居判定会議	入居判定会議	入居判定会議

以上

介護型ケアハウス サンライフ魚崎

令和7年度 事業計画書（案）

「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をスローガンに体操や散歩の機会を増やし、少しでも日光に当たる時間を増やしたり、体を動かす機会を増やすことで入居者様のさらなる健康増進に繋げる。記録ソフト変更やインカム等の ICT 導入・インターネットの活用を推進し、業務を最適化することで入居者様への手厚い介護支援ができるようにしていく。施設内設備を計画的に更新・整理整頓の意識を高め、入居者様が過ごしやすい環境・職員が働きやすい環境・きれいな施設をみんなで造っていく。

虐待・事故・感染症・災害など多様な知識や技術を増やしていくために、年間の内部研修計画に沿って研修を実施する。

1. 入居者様の健康増進・喜ばれる介護支援

- I. 入居者様の個別活動目標・できる取り組みを設定し、毎日できたかチェックを行う。月末に今の状態に目標・取り組みが合っているか確認・振り返りを行う。
- II. 毎月第1・2・4週目の木曜・金曜日に音楽療法講師による音楽療法を行う。また毎月第3月曜日にハーブセラピー講師をお招きし、希望される入居者様個別に演奏をしてもらう。
- III. 毎週火曜日・水曜日は余暇活動企画日とする。手作業・散歩・書道・入居者様と職員が一緒におやつ作る日を計画し、入所者様の楽しみや健康増進に繋げる。
- IV. 各フロアのインターネット環境を整備、Youtube を活用し皆様に気軽に体操等を行えるようにする。
- V. グループホームと協働し、感染症の状況等を見ながら秋ごろにバスハイクを企画する。
- VI. 入居者様担当職員が毎月1回は入居者様居室の整理・清掃を行い、気持ちの良い空間でお過ごし頂けるようにする。リーダー・相談員は実施できているかチェックを行う。

2. 入居者様の安定的確保・感染防止

- I. サンライフ魚崎事業所のホームページにおいて見やすく親しみを感じて頂けるようブログ等の見直し・更新を毎月行う。
- II. 見学希望や問い合わせにおいては相談員が丁寧に説明・ご案内・状況の聞き取りを行う。場合によってはケアハウスだけでなく、特養やショートステイ、グループホームの提案も行い、総合的な相談が出来るようにする。
- III. 申し込み頂けた場合は遠方であっても相談員・看護師で面接ができるように調整、健康診断の依頼を行う。
- IV. 1～2ヶ月に1回、サンライフ居宅・魚崎北部あんしんすこやかセンター・サンライフさくら魚崎北町と相談員が現況の情報交換を行う。

- V. 食堂などの共用部・ケアステーションに不要なものを置かない、平行直角に整頓するをリーダー・相談員が推進し、誰が見ても「きれいな施設」を造る。
- VI. 2ヶ月に1度、相談員が近隣の居宅介護支援事業所へ訪問しケアハウスの案内・関係づくりを行う。

3. 活力ある職場作り・業務改善

- I. 介護福祉士受験予定者及び介護支援専門員受験予定者の一部において施設内対策講座の受講・自己学習ができるよう勤務調整を行う。
- II. 施設内WiFi環境を整備し、記録ソフトをほのぼのからケアカルテへ変更・スマートフォン・インカム導入を進める。いつでもどこでも音声による記録ができるようにする事で記録に係る業務を効率化し、介護支援に注力できるようにする。
- III. 入居者様が安全にゆったりと入浴できるよう、また入浴時における職員負担軽減の為、ケアハウス1階はリフト浴の更新、2階・3階はリフト浴の導入を検討する。
- IV. 入居者様の日々の状況について家族様がスマートフォンアプリから確認できるようなシステム構築の検討を行う。また11月に家族会を開催し、施設情報の共有と家族様との関係強化を図る。
- V. 虐待防止を中心に喉詰め・救急対応・災害対応等、必要な研修を年間計画に沿って実施する。
- VI. 科学的介護推進体制加算、退院・退所時連携加算、若年性認知症入居者受入加算、口腔衛生管理体制加算を継続する。サービス提供体制強化加算については（I）が算定できるか検討する。
- VII. スライディングボードや介護リフトを必要に応じて使用し、職員の腰痛予防や負担軽減に繋げる。スライディングボードは各階1台ずつ置いているが、状況に応じて1台追加する事も検討する。

4. その他

- I. 光熱費や消耗物品の価格が高騰している為、計画的な空調の運転・備品のメンテナンス・可能な箇所の自己修繕などを行い、支出を抑制する。また照明に置いては蛍光灯の生産終了が予定されており価格がかなり高くなっている為、蛍光灯からLEDへ計画的に工事を含む取り換えを行う。
- II. BCPに基づき、災害時や感染症発生時においても事業が継続できるよう訓練を年2回行う。外国人職員にも分かりやすくマニュアルや基本仕様書の見直し・更新を行い全職員が落ち着いて適切な対応ができるようにしていく。
- III. 各居室エアコンの突発的な不具合があり、故障個所によっては修理部品の供給がないこともある為、計画的なエアコン更新を検討する。更新を実施する場合は秋ごろに3～5台程度エアコンの更新を行う。

5. 年間稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和6年度 (実績)	96.9	99.5	100	97.6	97.9	95.6	98.3	97.1	97.8	95.9	(98.5)	(98.0)	97.3
令和7年度 (目標)	99.0	99.0	98.5	98.5	98.5	98.5	99.0	99.0	98.5	98.5	98.5	98.5	98.6

6. 収支計画

令和7年度収支計画

(単千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入実績	19,870	21,336	21,157	20,842	20,855	21,022	125,082
令和7年度収入計画	20,250	21,750	21,000	21,250	21,000	21,000	126,250
令和6年度支出実績	15,296	13,793	27,474	13,813	14,293	14,476	99,145
令和7年度支出計画	15,500	14,000	27,500	14,000	14,500	14,500	100,000
令和6年度収支差額	4,574	7,543	-6,317	7,029	6,542	6,546	25,917
令和7年度収支差額計画	4,750	7,750	-6,500	7,250	6,500	6,500	26,250

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入実績	20,279	20,206	22,365	(20,750)	(18,750)	(20,750)	248,182
令和7年度収入計画	20,750	20,500	22,500	21,250	18,750	21,000	251,000
令和6年度支出実績	16,351	14,085	23,789	(14,750)	(14,000)	(14,750)	196,870
令和7年度支出計画	16,500	14,500	24,500	15,500	14,500	14,500	200,000
令和6年度収支差額	3,928	6,121	-1,424	6,000	4,750	6,000	51,312
令和7年度収支差額	4,250	6,000	-2,000	6,500	4,250	6,500	51,000
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							101%
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							101.5%
令和6年度と令和7年度計画の収支差額比率							99%
収入・支出・収支差額についての管理者意見							
WiFi環境の整備・介護記録ソフト変更・入浴設備の更新・居室エアコン更新を検討。計画的に設備投資を行いつつ、支出が大きくなり過ぎないようにしたい。空室や入院による空床をできるだけ削減して収入の確保に努める。							

7. 年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
重点目標	感染症予防	施設美化	事故防止	施設美化	熱中症予防	施設美化
研修・会議	相談員・リーダー会議					
	職員会議 フロア会議			職員会議 フロア会議		
利用者確保	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問 案内配布	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問 案内配布
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重点目標	腰痛予防	施設美化	感染症予防	施設美化	感染症予防	接遇強化
研修・会議	相談員・リーダー会議					
	職員会議 フロア会議			職員会議 フロア会議		
利用者確保	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問 案内配布	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問 案内配布

以上

介護型ケアハウス サンライフ魚崎医務室

令和7年度 事業計画書（案）

<スローガン>

「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」

<方針>

1. 入居者様の健康管理

- I. 入居希望者様との面接に同席し、生活上の医療的な問題の把握に努める。
- II. 入居者様の体調確認を行い、受診の必要がある場合は速やかに医療機関へつなぐ。日頃より異常の早期発見、早期治療に努め、なるべく入院日数を減らす。
- III. 毎月医療連携報告書を主治医へ提出し、医師と看護師の情報共有を行う。
- IV. 歯科医師指示の下、歯科衛生士による口腔ケアを2カ月に1回は実地出来るよう計画し歯科衛生士との情報共有を行う
- V. 褥瘡予防の取り組みを行う。栄養状態の管理、除圧の工夫、スキンケアに職員全員で取り組む。必要時皮膚科往診を依頼し処置を行う。
- VI. 転倒予防の取り組みを行う。転倒リスクのアセスメントを行い、環境整備、センサーマット・見守りカメラ・福祉用具の活用により職員全員で転倒予防に努める。転倒時のカンファレンスには積極的に参加し再転倒が起こらないよう尽力する。常に転倒要因について考え、職員にも教示する。
- VII. 筋力維持、向上の為に往診等の移動の際、歩行出来る方は歩行して頂き、車椅子の方は下肢のマッサージを行う。また他職員にも促していく。

2. 感染対策

- I. 手洗い、うがいを徹底し感染経路の遮断を行う。
- II. 感染者が出た場合は感染を拡大させないように、居室対応を行い、速やかに医師へ連絡し指示を仰ぐ。
- III. 感染対応物品が定位置に定数あるよう毎月確認していく。

3. 看取りの対応

- I. 入居時に危篤時の対応について入居者様・ご家族様へ意思を確認しておく。
- II. ご家族様や医師への状態報告を密に行い、適切な時期に看取り同意書の説明と同意を得る。
- III. 家族様の中には看取りについて不明瞭である場合が多く、その都度状態に合わせ

てお話しする。必要な際は医師の説明を受けられるよう取り次ぐ。

IV. ご本人、ご家族様の意向に沿って、最期まで安楽に過ごせる為の支援を行う。

V. 虐待防止の観点から、入居者様の心配や不安に耳を傾け、優しく丁寧な看護に今後も一層努力していく。

4. 研修

I. 内部外部共に研修には積極的に参加し、参加できなかった職員に学びを共有する。

II. 感染予防について感染対策委員と協力し職員への啓発、研修を行う。

5. 看護職員の健康管理

I. 3名で業務の分担をし、個人の仕事量が多くならないように配慮する。

II. 健康推進の為、連休や有給休暇が取れるよう勤務シフトを作成する。

III. 悩みや相談を言いやすい関係づくりに努め、風通しの良い働きやすい環境を作る。

以上

サンライフ魚崎（厨房）

令和7年度 事業計画書（案）

今年度は、ささゆり会の経営スローガンである『全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行』を実現させるため、厨房職員の人材育成を重点に置き、利用者様・入居者様に好まれる安心・安全・美しく・美味しい食事の提供を目指す。

また、課題である人員不足・食材料費高騰に向けた対策の検討を行う。

1. 新たな人材育成

- I. 昨年度は職員の入れ替わりが多くあった。昨年同様入れ替わりによる個々の技量差が目立つという課題点は変わらず。個人で出来る仕事の幅を増やしていくことで、より安定してかつ、効率的に業務が回るようにしていくことを目指す。また、基礎的な給食業務・衛生面の知識の教育は継続して行い、事故防止を図る。
- II. 新人教育については、職員定着率を上げることを目標とし、全員で支援していけるような体制作りに努める。
- III. 常勤管理栄養士の産休・育休、非常勤職員の退職等で人員不足状態が加速しているため、出来るだけ少人数で業務を回せるよう工夫をしていく。早出の人員が安定して確保されるまでの間、業務開始時間を1時間早め、朝食の提供内容を一部簡易化。（加工品を使う・粥食に提供していた汁物調理の中止）通常2名で行う業務を1名で対応中。昼食と夕食についても一部加工品を提供する等献立でも工夫を行い、必要配置人数を随時見直していく。
- IV. 管理栄養士の増員・人材の確保に努める
- V. 職員同士で意見や要望を言い合える場を作る為、昼礼の実施を継続していく。

2. 衛生管理の徹底

- I. 異物混入等の事故・厨房内害虫発生防止のため、春季と秋季の清掃以外にも、定期的に手が届きにくい場所も清掃することを心掛ける。害虫駆除業者とも情報共有を行い、より有効的な清掃方法についても検討を重ねていく。業者より溝に熱湯を流すことでチョウバエの発生を防ぐという策を頂き実施中。効果みられているため今後も継続して行っていく。
- II. 食器・調理器具についてもより衛生的で安全な物を提供できるよう、随時買い替えも検討していく。食器については定期的に漂白を行い、利用者様によりきれいな状態

で使っていただけるよう努める。調理器具については、職員が怪我することのないよう、必要に応じて新調していく。

3. 食材価格高騰に対する対策

食材価格の高騰は変わらず。昨年度より主な納入先を1社増やし、価格に応じて発注先の切り替えを行っている。今後も随時相見積もりを取りながら、より安価で仕入れできるような状況によって納入先の変更を検討していく。生鮮野菜の価格変動が大きいいため、価格の安定した冷凍野菜を活用していく。業者とも情報の共有を行い、使用する食材について代替えや献立の変更も検討していく。また、料理提供量についても無駄なく、かつ利用適した内容者様によりとなるよう、調理員や他職種職員への意見も伺いつつ分量調整していく。フードロスの観点からも、必要栄養量を満たす範囲内で可能な限り献立の調整を行う。

4. BCPサイクルの取り組み

内部研修も活用し、職員がBCPの流れを周知し、感染症や天災が発生した場合であっても、利用者様に必要なサービスが継続して提供できるような体制作りを行う。

5. 美味しい食事の提供

現在人員不足状態のため、提供献立においてできるだけ簡単な工程で、盛り付けや下処理についても手間のかかりすぎないように工夫している。味に関しては例年行っている食事アンケートより、利用者様には満足いただけているようだが、食事レクやおやつレクの提供を中止していることもあり、献立においてはやはり単調になってしまっていると思われる。職員の技量向上・人員不足の解消を目指し、改善の兆しがあればもう少し手間をかけた献立の提供や、現在中止している食事レクや松花堂弁当週間について再開も検討していく。

以上

サンライフ魚崎居宅介護支援事業所

令和7年度 事業計画書（案）

今年度の法人経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行」に沿ってケアマネジメントを行い、昨年に引き続き黒字をできるだけ増やす方向で進めていきます。令和6年4月の介護保険改正に伴った対応ができるようにします。

1. 感染症や災害への対応力強化

BCP（事業継続計画）を備えたマニュアルを確認し、訓練も行っていきます。

感染症や災害の発生した場合であっても、日頃から地域にある介護サービス事業所や福祉用具事業所と密に情報交換をすることにより、利用者様に必要なサービスを継続的に効率よく提供できるようにします。本年もケアマネロッカーに災害時、持ち出し可能な名簿を作成保管し、速やかに災害時の安否確認が出来るようにします。

2. 適正なケアマネジメントを行います

- I. 退院・退所時カンファレンスにおける福祉用具専門相談員等を必要に応じ、参画することを明確にします。
- II. 看取り期でのサービス利用前の相談、モニタリングの評価を行い、本人の意思を尊重した支援に結び付けます。
- III. 昨年6月の神戸市指導監査で口頭指導があり、今年度は次のように取組みます。サービス担当者会議録の事業者への配布、主治医との連携をしっかりとること、変更申請をかけた方への暫定ケアプランを適時行う事、加算を取っていることについては加算要件をしっかりと行っていきます。

3. 研修・その他

- I. 修は各ケアマネジャーが自分で考え、積極的にZOOMにより受講していきます
- II. 高齢者虐待、ハラスメント、困難事例等、人権尊重に基づいたケアマネジメントについて地域包括支援センターと連携をはかり、早めに対応していきます。
- III. 今年度は主任介護支援専門員が二人となりました。今後特定事業所加算をとれるように準備していきます、

4. 収支計画（居宅介護支援費・介護予防支援業務委託料・認定調査委託料）（単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入実績	1495	1424	1469	1419	1462	1453	8722
令和7年度収入計画	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	9,000
令和6年度支出実績	1358	1110	2759	1133	1163	1226	8749
令和7年度支出計画	1,180	1,180	2,800	1,180	1,180	1,180	8,700
令和6年度収支差額実績	557	386	-1,224	340	335	273	667
令和7年度収支差額計画	320	320	-720	320	320	320	320
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入実績	1559	1476	1557	1500	1500	1500	17814
令和7年度収入計画	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	18,000
令和6年度支出実績	1417	1220	2617	1180	1180	1180	17523
令和7年度支出計画	1,180	1,180	2,800	1,180	1,180	1,180	17,400
令和6年度収支差額	379	258	-1060	320	320	320	291
令和7年度収支差額計画	320	320	-700	320	320	320	600
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							103.3%
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							99.3%
令和6年度と令和7年度計画の収支差額比率							200%

管理者意見

令和6年度より担当件数が45件となり、支援を滞りなく行い利用者数もできるだけ担当できるよう努力いたします。

以上

魚崎北部あんしんすこやかセンター

(地域包括支援センター)

令和7年度 事業計画書 (案)

経営スローガン 「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」
「全職員の専門力を生かし連携して、楽しく生活できるよう支援する！」

令和5年度より、お店、銀行、病院、介護事業所等多くある甲南商店街を安心して利用できるように、立ち寄れる場所や情報を入手できる場所を増やすプロジェクト甲南ネットワークで、地域の人達と、甲南商店街のイベント開催時にブースを設置し、高齢者の相談窓口や認知症について、高齢者だけでなく、子供や子育て世代にも広報してきた。令和6年度は、甲南商店街イベントに2回ブース参加できた。

またコープ甲南とも連携し、「ゆるーくつながるお楽しみ会」を令和6年2月より開催し、地域包括の情報を提供できた。令和6年度は、3回イベント開催出来た。3月29日に「災害に備える」をテーマに4回目のイベント開催予定である。令和7年度も、このネットワークで、地域の人達、商店街、コープ甲南、介護事業所、病院、薬局等と連携し、色々なことを情報発信し、少しでも安心して過ごせる町になるよう目指したい。

北青木地域では、月1回シニア元気相談会を通し、相談対応やフレイル予防体操を実施できた。6月は「健康チェック」イベント開催した。福池小学校区防災福祉コミュニティの人達と連携し、9月と12月福池小学校防災訓練に参加し、地域の取り組みを学んだ。10月「防災について」イベント開催し、防コミと地域の人で、防災について話し合いを行い、地域の人々の防災への情報や意識を高める必要性を感じた。

令和7年度は、北青木地域の防災について、地域ケア会議を開催し、防災の取組状況を共有し、地域の人たちが防災についての意識を高めるにはどうしたら良いか検討し取り組んでいく計画である。

令和7年度は、老人会などに、「フレイル予防支援事業について」広報し、少しフレイルとなった地点で地域包括支援センターに相談してもらい、フレイル予防支援事業6カ月間利用し、元の生活に戻れるように支援する取り組みを勧めたい。

今年度も、広報ルートや出張相談会を上手く活用し、発信や活動していきたい。

魚崎北町の校北公園で令和4年5月より毎週水曜日9時半よりラジオ体操を開催している。今年度も継続し、フレイル予防や情報提供を継続していきたい。

相談、フレイル予防支援、認知症施策、ひきこもり・8050関連施策との連動、こど

も若者ケアラー、包括的連携、虐待、困難事例、成年後見、ケアマネ支援、見守り、緊急対応、地域診断、災害への取り組み、つどい場の後方支援、地域ケア会議、介護リフレッシュ教室、イベント企画等、多種多様な対応を求められているが、常にセンター内で情報共有し、感染防止策を検討し、職員一同で助け合って乗り切る。

介護予防ケアマネジメント件数が、昨年3月より今年1月現在で、受託が16件増えている。令和7年度も、さらに10件増を目指す。

企画イベント回数、記録の短縮、業務の簡素化や効率化を図り、定時退社を目指す。体操や研修で、足腰頭と心を鍛えて、職員の健康維持増進を目指す。

1. 高齢者への虐待防止、消費者被害防止、成年後見制度の活用等の権利擁護支援

つどい場・介護リフレッシュ教室・給食会・相談対応・地域の掲示板や配布等で消費者被害注意喚起の広報をする。圏域内で消費者被害の被害情報が入った際は、民生委員や防犯担当役員に報告し、内容が目新しいものであったり、深刻なものについてはチラシを作成し、地域に配布する。

虐待予防パンフレット「家族を支えるあなたへ」は令和7年度も、引き続き活用していきたい。家族からの新規相談の際は必ず配布する。

成年後見制度については小規模多機能居宅支援事業所の運営推進会議や地域からの要請があった場合、認知症に関わるイベント等でチラシを作成し、広報する。

2. 認知症サポートネット「お魚の会」の更なる推進

(令和6年度は神戸市からの委託料なし。認知症高齢者声掛け訓練開催経費1万円)

14年目を迎える「お魚の会」は「地域ケア会議」を兼ねて令和7年度も開催予定。

「プロジェクト甲南」ネットワークで、甲南商店街でイベント開催時に、ブースを設置し、地域包括の広報や認知症の対応等広報し、認知症の人や高齢者が安心して甲南地域を利用できるように目指す。また認知症高齢者声掛け訓練を実施する。

3. 健康寿命延伸の推進に関する業務 (令和5年度神戸市から85万円の委託料あり)

介護予防普及啓発事業「元いきいき講座」をR7年度は、年1回開催予定。北青木地域の自治会役員との共催の形で実施できることを目指す。

魚崎北町の高齢化率の高い地域の公園でラジオ体操の定期的開催を継続する。

令和7年度は、老人会などに、「フレイル予防支援事業について」広報し、少しフレイルとなった地点で地域包括に相談してもらい、フレイル予防支援事業6カ月間利用し、元の生活に戻れるように支援する取り組みをしたい。

4. 地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議等を開催していく。

(神戸市から最大50,000円開催経費あり。)

- ・地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議を開催していく

第1回目 7月 「北青木地域の防災への取り組みについて」を共有し、地域住民に防災への意識を高め、備えていただくにはどうしたら良いか検討。

第2回目 10月 プロジェクト甲南ネットワークで、ボランティア、甲南商店街のお店、医療、介護が連携し、甲南地域で、楽しく情報を得られるイベント開催を行っている。「甲南地域で、イベントを継続できるように、支援者の負担を軽減し効率的に取り組める仕組みを考える。」

第3回目 1月 事例検討会開催

・地域別連絡会（ケアマネ支援）

・「東灘区あんしんすこやかセンター」と「医療介護サポートセンター」合同にて、センター主催、ケアマネ支援研修会を年4回開催する。

第1回目 8月 医療と介護の連携について

第3回目 9月 生活困窮者の支援の仕方

第2回目 11月 口腔内研修

第4回目 2月 障害者サービスと介護保険適用に関する情報交換会

・地域内の事業所やケアマネのレベルアップと連携を図る目的で事業者連絡会開催。

第1回目 8月 居宅介護支援事業所のケアマネジャー座談会

5. 地域のつどい場

外出の機会が減り、フレイルの進行が懸念される独居高齢者世帯や老々世帯などが、地域に出掛けられるように支える。また、活動開始された居場所もあり、地域資源として後方支援行う。

ふれあい喫茶は当法人主催での取り組みであるが、再開の工夫や規模縮小など考えて、今後も再開の検討を行っていく。

・介護リフレッシュ教室の開催※神戸市より年間最高18万円委託料あり。

介護者を対象にした介護リフレッシュ教室（年4回開催予定）

第1回目 4月 体操（イスヨガ）

第2回目 6月 音楽鑑賞

第3回目 11月 フラワーアレンジメント

第4回目 2月 茶話会

6. 令和7年度 収支計画

収支計画【神戸市からの委託料(5月一括入金)及び介護予防費含む】

※5月8月12月 神戸市の委託料収入あり (単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和6年度収入実績	912	25,026	878	839	856	884	29,395
令和7年度収入計画	900	25,000	900	910	910	920	29,410
令和6年度支出実績	2119	1,984	4,025	2,083	2,046	2,076	14,333
令和7年度支出計画	2,100	2,100	3,500	2,100	2,100	2,100	14,000
令和6年度収支差額	-1,207	23,042	-3,147	-1,244	-1,190	-1,192	15,062
令和7年度収支差額 計画	-1,200	22,900	-2,600	-1,190	-1,190	-1,180	15,540

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度収入実績	900	876	926	900	900	900	34,797
令和7年度収入計画	920	930	930	940	940	950	35,150
令和6年度支出実績	2,268	2,124	3,483	2,100	2,100	2,100	28,508
令和7年度支出計画	2,100	2,100	3,500	2,100	2,100	2,100	28,000
令和6年度収支差額	-1,368	-1,248	-2,557	-1,200	-1,200	-1,200	6,289
令和7年度収支差額 計画	-1,180	-1,170	-2,570	-1,160	-1,160	-1,150	7,150
令和6年度と令和7年度計画の収入比率							101 %
令和6年度と令和7年度計画の支出比率							98 %
令和6年度と令和7年度計画の収支差額比率							113 %
イベントや事務消耗品等の支出を必要最小限にとどめ、介護予防ケアマネジメントの受託件数を増やし、今年度も収入1%UPを目指す。							

(令和6年度の収支実績は12月まで情報あり。1月からは予測で入力。)

以上